

成果報告書

1. 事業名

「 人生を切り拓くライフプランニング教育 」

2. 実施組織の構成

① 実行委員会の構成員

氏名	所属・役職等	備考欄
植田 誠治	聖心女子大学 副学長(学務・大学院担当)	
大槻 奈巳	聖心女子大学 キャリアセンター長/人間関係学科教授	男女共同参画
棚瀬 佐知子	小林聖心女子学院 校長	聖心女子学院一貫教育委員会代表
笹原 恵	静岡大学 ダイバシティ推進担当副学長	男女共同参画
矢口 徹也	早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授	男女共同参画
福井 庸子	大東文化大学 経営学部 専任講師	男女共同参画
濱 由樹	(独)国立女性教育会館事業課 課長	男女共同参画
黒澤 あずさ	(公財)日本女性学習財団 学習事業課 課長	男女共同参画
三輪 英子	(株)キャリアクリエーション 代表取締役	元資生堂人事採用担当課長
新井 浩子*	早稲田大学 文学学術院 講師(任期付)	男女共同参画
跡部 千慧*	立教大学 コミュニティ福祉学部 助教	男女共同参画
酒井 計史*	(独)労働政策研修研究機構 リサーチ・アソシエイト	男女共同参画

*兼 聖心女子大学非常勤講師

② コーディネーター

氏名	所属・役職等	備考欄
新井 浩子*	早稲田大学 文学学術院 講師(任期付)	-

3. 取組内容の趣旨・目的

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること。(別紙を添付することも可)

※委託要項「2 委託事業の内容(1)・(2)の②及び③」の内容について、それぞれ分かるように明記すること。

「女性活躍加速のための重点方針2018」では「あらゆる分野における女性の参画拡大・人材育成」が挙げられ「学校段階からのキャリア形成にかかる学びの充実」が指摘されている。大学教育のなかで、大学生が男女共同参画の視点を養い、自らの将来の職業や様々なライフイベント、社会において果たす役割等を含めたライフプランニングについて考える機会を充実させることが重要である。また、大学生が自らの「無意識の偏見」に気づくことも必要である。

このような状況をふまえ、本事業では、授業や課外講座のなかで、男女共同参画の視点に立ったライフプランニングの基礎を学び、働いている人へのインタビューの実施、事例分析やロールモデルとのディスカッション、グループワークなどを通して、学生が主体的に学び、人生を切り拓く力を身につけることを目的とする。

人生を切り拓く力とは、自分の行きたい方向に自分をもっていける力である。前提を問い、自分の行きたい方向に行くにはなにが障害なのかを見極め、障害をどう乗り越えるかを考え、必要な支援、得られる資源を把握し、支援や資源を活用しつつ、自分の人生を主体的に自分の希望の方向にもっていく力である。

2019年のジェンダーギャップ指数において日本は121位であることを鑑み、女子大学において女子を対象としたプログラム開発を行い(初年次用プログラム等は本学の一貫教育委員会の高等学校教員の助言もふまえる)、共学の大学で男女の学生に対して検証し、女子学生用(女子大学の女子用と共学校の女子用)と男女学生用のライフプランニング教育のプログラム開発を行う。①課内の授業と授業、②授業と課外の講座、③課外の講座と講座、を有機的に結び付け、学生が、①自分を知り、②社会の構造を知り、③人生をどう生きるかを深く考え、④自分の行きたい方向に自分を主体的にもっていくカー—人生を切り拓くカー—を養う。

4. 実施により得られた成果・効果

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること。(別紙を添付することも可)

(成果・効果)
別紙にて提出

(目標、測定する指標)
別紙にて提出

5. 具体的実施内容、実施方法等

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること。(別紙を添付することも可)

別紙にて提出

6. 実施体制（再委託先まで含めた実施体制について図示すること）

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること。（別紙を添付することも可）

<p>聖心女子大学(企画提案者)(植田・大槻・新井・跡部・三輪)</p> <p>～課内授業、課外講座・活動のプログラムの開発と実施 実行委員の本務校・非常勤講師先での課内授業、課外講座・活動 プログラムの他大学での検証(早稲田大学[矢口・新井]、 大東文化大学[福井]、立教大学[跡部]、千葉商科大学[酒井]) 本事業の統括、全体のプログラムの調整</p> <p>・コーディネータの役割(新井浩子・聖心女子大学非常勤講師)</p> <p>～授業全体の統括・調整(①各プログラムの目的とレベル設定・調節、②課外講座・活動実施 関係者との打合せやロールモデル選定、③委員会開催、成果物作成の統括、④プログラム評価 の指標作成、評価方法論の提示)。</p> <p>・連携先ー静岡大学～課内授業、課外講座の他大学での検証予定(笹原)</p> <p>ー早稲田大学～課内授業の他大学での検証予定(矢口・新井)</p> <p>ー国立女性教育会館～男女共同参画情報提供(濱)</p> <p>ー日本女性学習財団～課外講座の実施と検証予定(黒澤)</p>

7. 実施スケジュール（行程がわかるように適宜様式を編集して記載すること）

項目	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実行委員会開催						●						●
キャリアデザイン入門Bの実施(聖心女子大学)と 検証(早稲田大学・大東文化大学)					→ 実施・検証							
キャリア形成の社会学の実施(聖心女子大学)と 検証(立教大学)					→ 実施・検証							
職業社会学1の実施(聖心女子大学)と検証 (千葉商科大学)									→ 実施・検証			
職業社会学2の実施(聖心女子大学)と検証(立教大学)					→ 実施・検証							
ライフプランニング講座Aの実施(聖心女子大学・ 早稲田大学・静岡大学)						→ 検証・実施			→ 実施			
ライフプランニング講座Bの実施(聖心女子大学)と 検証(静岡大学)									→ 検証(学内) 検証(学外)			
HPの構築、成果物のアップ					→							
修了書・ワークシート・教材動画等の作成					→				→			
本年度事業に関する検討打合わせ					→				→			

(別紙)

4. 実施により得られた成果・効果

(成果・効果)

4つの課内の授業科目と2つの課外の講座を有機的にむすびつけ、まず、聖心女子大学において女子を対象としたプログラム開発を行う。次に、共学の大学で男女の学生に対して検証し、最終的には、女子学生用(女子大学の女子用と共学校の女子用)と男女学生用のライフプランニング教育のプログラム開発を行う。「女性活躍加速のための重点方針 2018」がめざす「あらゆる分野における女性の活躍」「男性の暮らし方、意識の変化」を担う女子学生、男子学生を育成するプログラムを開発する。

プログラム開発を行い、HP にすべての成果物(プログラム、指導者向けツール、教材、普及ツール)を PDF 版および編集可能なファイル形式でも提供する。

【令和2年度】

(1)授業: キャリアデザイン入門 B

a)男女共同参画の視点にたったライフプランを学ぶプログラム。b)指導者向け資料:講義内容、プログラムの進め方、対象者別の展開例、ゲストトークの進め方。c)教材:統計データ資料、キャリアデザイン実習用ワークシート、振り返りシート、事前・事後アンケート(120人)、d)普及ツール:学習内容を紹介する動画を作成する(参加した学生が事後学習として作成する。作成方針や内容は実行委員会で検証する)

※オンライン授業実施に伴う変更:「統計データ資料」に代わりワークライフバランスに関する教材を作成。また、社会人キャリアモデル(6名分)の体験談・パネルディスカッションの教材動画を作成した。

→他大学用に授業 11 回版のほか、授業 15 回版、テーマ別に 6 ユニットに分割し、任意の 1 つまたは複数ユニットを選択し実施することができる版も開発する。

(2)授業: キャリア形成の社会学

a)大学生対象のロールモデル事例分析とインタビュー調査を学ぶキャリア教育プログラム、b)指導者向け資料:講義内容、プログラムの進め方、対象者別の展開例、キャリア教育で用いる LTD 学習法の例、c)教材:ロールモデル事例集、先行研究学習用ワークシート、質問項目作成用ワークシート、インタビュー調査結果報告用ワークシート、レポートのひな型、授業のふり返り用ワークシート、事前・事後アンケート(70人)、d)普及ツール:ロールモデルインタビュー動画

※オンライン授業実施に伴う変更:「ロールモデルインタビュー動画」は作成しない。

→他大学用に、4 回版のほかに 2 回の講座版も開発

(3)授業: 職業社会学 2

a)主体的に学び働くことの意味を学ぶキャリア教育プログラム(講義形式で取り入れられるアクティブラーニング)、b)指導者向け資料:講義内容、ワールドカフェ形式のプログラムの進め方、対象者別の展開例、LTD 学習法の例、c)教材:先行研究学習用ワークシート、事前・事後アンケート(60人)、d)普及ツール:学生目線の授業紹介動画

※オンライン授業実施に伴う変更:「授業紹介動画」は作成しない。

→他大学用に、4 回版のほか、2 回の講座版も開発

令和元年度開発の下記の(1)~(3)の授業・講座についても検証結果を踏まえて改訂し提供する。

アンケート対象学生人数(令和元年度開発で令和2年度に検証実施する授業・講座分)

R1 年度実施済みの授業、課外講座は1年目の反省・検討点をふまえ、よりねったプログラム案で実施する。

(1)授業:職業社会学1

a)大学生が社会人にインタビューし、生き方を分析するキャリア教育プログラム。b)指導者向け資料:プログラムの進め方、対象者別の展開例、事前・事後アンケート。c)教材:質問項目作成用ワークシート、インタビュー調査結果報告用ワークシート、レポートのひな型、授業のふり返り用ワークシート。d)普及ツール:大学生向けのロールモデルインタビュー動画

※オンライン授業実施に伴う変更:「レポートのひな型」は、インタビュー調査結果報告用ワークシートと合体した。「大学生向けのロールモデルインタビュー動画」は、コロナ禍において作成とりやめ、既に作成したキャリアモデル3名の動画で代替した。

(2)講座:ライフプランニング講座A

a)将来展望を具体化し切り拓く力を学ぶキャリアデザインプログラム、b)指導者向け資料:講座内容、プログラムの進め方、対象者別の展開例、ゲストトークの進め方、c)教材:統計データ資料、キャリアデザイン実習用ワークシート、ふり返りシート、事前・事後アンケート、d)普及ツール:学習内容を紹介する動画を作成する(参加した学生が事後学習として作成する。作成方針や内容は実行委員会で検証する)

→他大学用に、2回の講座版も開発

(3)講座:ライフプランニング講座B

a)仕事の現場からキャリアを考えるプログラム、b)指導者向け資料:プログラムの進め方、対象者別の展開例、ゲストトークの進め方、c)教材:事前課題シート、ワーク&ふり返りシート、事前・事後アンケート、d)普及ツール:学習内容を紹介する動画を作成する(参加した学生が事後学習として作成する。作成方針や内容は実行委員会で検証する)

※オンライン授業実施に伴う変更:広報動画の代わりに、社会人3名のキャリアトークおよび学生の感想・質疑部分を録画編集して教材動画を作成した。

→他大学用に、4回版のほか、2回講座で開催できる版も開発する。

⇒上記の授業・講座の女子大の女子学生用、共学の女子学生用、共学の男女学生用のプログラム案を開発する。HPにすべての成果物(プログラム、指導者向け資料、教材、普及ツール)をPDF版および編集可能なファイル形式でも提供する。

(目標、測定する指標)

①課内の授業と授業、②授業と課外の講座、③課外の講座と講座、を有機的に結び付け、学生が、①自分を知り、②社会の構造を知り、③人生をどう生きるかを深く考え、④自分の行きたい方向に自分を主体的にもっていく力ー人生を切り拓く力ーを養う。事前アンケート、事後アンケートや事後のふり返りシートによって学生の考えについて検討する。

別紙5. 具体的実施内容、実施方法等

【実施事業一覧表】

	授業・講座名	対象学年	実施場所・方法	講師（所属）	実施日	概要	キャリアモデル	フロンティア	参加者数	性別内訳
1	「キャリアデザイン入門B」（授業科目）100分×2回	1・2年	聖心（Zoom）	新井 浩子（早稲田大学文学部 講師（任期付））	2020/6/11、6/18	男女共同参画の視点にたった大学卒業後の働き方、暮らし方について具体的に考える機会を多様に設け、進路や職業を主体的に選択する能力・態度の基礎を形成する。大学生活をライフキャリアの一部としてイメージできるように支援し、大学時代にどのような力をつけるべきかを学生自らが考えることを目指す。	社会人3名×2回		47名（履修者数）	女性のみ
2	「キャリアデザイン入門B」検証「キャリアデザインB—しごと・能力・ライフデザイン」（授業科目）	対象学年：3・4年 主な受講生：3年生	大東文化（Zoom）	福井 庸子（大東文化大学 経営学部 専任講師）	2020/7/9、7/10	大学から社会に出ていく際に、主体的に自らの人生を切り開くことのできる能力の涵養を目指す。	社会人3名×2回（オンデマンド）		290名（履修者数, 3授業合計）	男性169名、女性121名
3	「キャリアデザイン入門B」検証「女性・しごと・ライフデザイン」（授業科目）	全学年	早稲田（Zoom）	新井 浩子（早稲田大学文学部講師（任期付）） /矢口（早稲田大学教授）	2020/7/10	女性の仕事、生活に関する現代的課題を理解し、自分自身の将来の働き方・暮らし方について様々な視点から考える機会を提供する。その上で大学時代にどんな力をつけるべきかも考えてもらう。	社会人3名×2回（オンデマンド）		38名（履修者数）	事後アンケート回答者31名のジェンダーアイデンティティは全て女性
4	「職業社会学2」（授業科目）100分×4回	3年	聖心（Zoom）	跡部 千慧（立教大学コミュニティ福祉学部 助教）	2020/6/18、6/25、7/2、7/9	①「働くこと」の意味について主体的に考える。②「職業」の意味について多面的に考える、③これからの「働き方」について自分なりの考えを持ち、表現できる力をつける。			70名（履修者数）	女性のみ
5	「職業社会学2」の検証「基礎演習」（授業科目）100分×2回	1・2年	立教（Zoom）	跡部 千慧（立教大学コミュニティ福祉学部 助教）	2020/6/25、7/1	①「働くこと」の意味について主体的に考える。②「職業」の意味について多面的に考える、③これからの「働き方」について自分なりの考えを持ち、表現できる力をつける。			19名（履修者数）	男性7名、女性12名
6	キャリア形成の社会学（授業科目）100分×6回	3年	聖心（Zoom）	跡部 千慧（立教大学コミュニティ福祉学部 助教）	2020/4/23、5/14、6/25、7/2、7/9、7/16	①キャリアとは何かを理解し、②実際にインタビュー調査を実施することによって、女性のキャリア形成のあり方を社会構造の面からとらえた上で、自らのキャリア（ライフストーリー）を主体的に創り上げていく力を			20名（履修者数）	女性のみ
7	「キャリア形成の社会学」の検証「質的リサーチ」（授業科目）100分×2回	2～4年	立教（Zoom）	跡部 千慧（立教大学コミュニティ福祉学部 助教）	2020 /5/26、7/14	①キャリアとは何かを理解し、②実際にインタビュー調査を実施することによって、女性のキャリア形成のあり方を社会構造の面からとらえた上で、自らのキャリア（ライフストーリー）を主体的に創り上げていく力を			83名（履修者数）	男性26名、女性41名、いずれでもない11名、答えたくない5名
8	「職業社会学1」（授業科目）100分×3回+インタビュー調査1名	3年	聖心（オンライン・オンデマンド・googlemeet）	大槻 奈巳（聖心女子大学教授）	2020/12/8、12/15、2021/1/19、インタビューの実施	キャリアモデルの話、働いている人へのインタビュー、グループワークでの比較分析を通し、働くことの意味、人生を切り拓く力を学ぶ。	社会人3名（オンデマンド）	-	97名（履修者数）	女性のみ
9	「職業社会学1」の検証「日本現代社会論」（授業科目）100分×2回+インタビューの実施	全学年	千葉商科大学（オンライン・オンデマンド）	酒井 計史（JILPT・リサーチ・アソシエイト）	2020/12/7、12/14+インタビューの実施	キャリアモデルの話、働いている人へのインタビューを通し、働くことの意味、人生を切り拓く力を学ぶ。	社会人3名（オンデマンド）		116名（履修者数）	男73、女43
10	「ライフプランニング講座A」（100分）	2・3年	聖心・早稲田・静大（Zoom）	新井 浩子（早稲田大学文学部講師（任期付））	2020/12/2	ロールモデルの話とグループディスカッションから、自身の将来展望を具体化し人生を切り拓く力を学ぶ。	社会人12名	日本女性学習財団	53名	女43、男10
11	「ライフプランニング講座B」（40分×4回）	2・3年	聖心（Zoom）	三輪 英子（(株)キャリアクリエーション 代表取締役）	2020/11/4、11/11、11/18、11/25	働くうえで必要な能力と社会構造を知り、無意識の偏見のないライフキャリアを考え、主体的な大学生活につなげる。		-	第1回：86名 第2回：78名 第3回：67名 第4回：61名	女性のみ
12	「ライフプランニング講座B」（90分×2回）	2・3年	静大（Zoom）	三輪 英子（(株)キャリアクリエーション 代表取締役）	2021/2/16、2/22	働くうえで必要な能力と社会構造を知り、無意識の偏見のないライフキャリアを考え、主体的な大学生活につなげる。		-	第1回：20名 第2回：18名	第1回：女8、男12 第2回：女5、男13

性別内訳について）LGBTQ+への配慮の観点から、共学校の履修者名簿に性別は記載されておらず、名前から集計、またはアンケートにて集計している数も含まれます。

I. 実施授業・課外講座の内容について

キャリアデザイン入門B (授業)

※新型コロナウイルス感染症対策に伴う変更点

- ・聖心女子大学では、第1回～5回をオンデマンドで実施、第6回～11回をZoomによる同時配信授業で実施
大東文化大学では、全回を資料・課題提示型授業で実施
早稲田大学は、授業動画OR資料・課題提示型授業で実施
- ・聖心女子大学で実施予定だったOGゲストトークを、Zoomを使ったパネルディスカッションに変更し、その録画を元に動画を制作し、大東文化大学、早稲田大学の授業で教材として使用した。
- ・聖心女子大学、早稲田大学で計画していた宿泊学習は中止。計画していた社会人や上級生との交流を伴う学習は、12月実施のライフプランニングA（聖心女子大学、静岡大学、早稲田大学合同）で実施した。
- ・実習用等ワークシート、ふり返りシート、事前・事後アンケート等は、Googleフォームで作成し、3大学共通で使用した。
- ・制作予定だった学生目線の紹介動画は、パネルディスカッションの動画教材制作に変更した。

※プログラムの評価と課題

- ・個人学習、グループディスカッション、講義の組み合わせは、オンラインでも効果的であり学生にも歓迎された。スマートフォン等でも入力可能なGoogleフォームを使用したワークシート、Zoom等でのグループディスカッションの実施方法等についてまとめたので活用していただければ幸いである。
- ・社会人がキャリアに関する体験を語るシンポジウムは、同時配信・オンデマンドの両方とも効果的であり学生にも歓迎された。教材動画を作成したので広く活用いただければ幸いである。
- ・当初、女子大学用、男女共学用のプログラムを作成する予定であったが、大東文化大学での検証の結果、別プログラムを作成する必要は必ずしもないことがわかった。男女による意識差は縮小しており、男子も男女平等な社会を望み、女子も養ってもらおうといった価値観が弱くなっている。むしろ、家事や育児の実態や当事者の思いにはじめて触れたという感想が多数で、従来は女子向けとされてきたWLBや育児などを含むジェンダー視点に立ったプログラムの有効性が感じられる。
- ・ただし、受講後の自信向上、将来への不安解消といった項目は女子が低く、受講動機として将来を考えたい女子が多い。早稲田大学での検証では、女子学生をターゲットにした授業への評価が高いため、女子学生のエンパワーメントを目的とするプログラムが不要とは判断できないだろう。意識調査や就業継続に関する実態調査などを行った上で、具体的に検討する必要があると考えられる。

1. プログラム (案)

授業目的

就職に向けた「対策」ではなく、男女共同参画の視点にたった大学卒業後の働き方、暮らし方について具体的に考える機会を多様に設け、進路や職業を主体的に選択する能力・態度の基礎を形成する。大学生活をライフキャリアの一部としてイメージできるよう支援し、大学時代にどのような力をつけるべきかを学生自らが考えることを目指す。

プログラムのポイント (想定される効果)

- ・学生が考え、意見交換するアクティビティと講義を組み合わせた参加型双方向型(ワークショップ形式)で実施する。
- ・ペアワークやワークシート記入など、学生が希望や不安を言語化し共有する機会を設け、自己理解やコミュニケーションスキルを向上させる。少し先を行く先輩である OG に体験談を聞くことで、長期的な将来展望の構築を助け、人生を切り拓く自信を獲得できるようにする。
- ・自ら学ぶ姿勢でのぞめるよう、事前にテーマに関する課題に取り組み、事後には振り返りシートを記入する。

プログラム案 (授業2回×5ユニット+まとめワークショップ1回) ※実施校に合わせて①~⑪を自由に組み合わせ可能

(1) 自身の将来を考えるワークショップ (授業×2回)

①私の将来イメージ	ワークシート記入、小グループで話しあい、ライフプランニングについてレクチャー。 ※事前学習：10年後の生活や仕事を考えるワーク
②10年間のライフプラン	ワークシート記入、小グループで話しあい、M字型雇用や男女の賃金格差などについて講義。 ※事前学習：ライフプランニングをたてるワーク

(2) 働くことを考えるワークショップ (授業×2回) ※女性への暴力やSOGI ハラスメント含む

③日本の男女格差と女性の就労状況	働く女性の現状と課題・働く女性の権利・職場における問題等について講義、質疑応答。 ※事後学習：身近な人に日本の男女平等度の印象や意見を聞く
④働くときに大事にしたいことについて考えよう	ワークシート記入、職業選択時に重視したいことについて小グループで話しあい、全体シェア、職場におけるハラスメント対策や女性の生涯にわたる健康等について講義。 ※事前学習：職業を決める時に重視したいことを考えてくる

(3) ライフコースの多様化と仕事を考えるワークショップ (授業×2回) ※女性の生涯にわたる健康含む

⑤OG ゲストトーク「転職・結婚・子育てについて」	30代 OG の学生時代から現在までのキャリア・仕事の内容とやりがい・出産育児と就業等についてのライフストーリーを聴く、質疑応答 ※事前学習：ゲストへの質問を考えてくる
⑥女性のライフコースの多様化について考えよう	結婚・家族のあり方の多様化、日本の女性と就業の変化、女性の生涯にわたる健康等について講義、質疑応答。 ※事前学習：結婚や育児、育児休業に関する統計データをインターネットで調べてくる

(4) 社会人と一緒に人生の軸を考えるワークショップ (授業2回、宿泊学習・履修性以外の学生参加での実施も可)

⑦OG ゲストトーク「学生時代にどんな力をつけるか」	20代 OG ゲストから社会人になった今学生に伝えたいこと等についての話を聴く、質疑応答。 ※事前学習：ゲストへの質問を考えてくる
⑧人生の軸を考えよう	ゲストトークへの感想、将来に対する悩みや不安等を小グループで出し合いOGと意見交換。将来を切り拓いていくうえで大事にしたい・大学生活で挑戦したいこと等について話し合ってみよう。 ※事前学習：先輩の話聞いての発見・疑問・知りたいことをピックアップ

(5) 社会人として求められる力とWLBを考えるワークショップ (授業×2回) ※男性の育児参加含む

⑨ワークライフバランスとは	大卒女性の職業キャリア、職業役割と家庭役割、WLB、男性の育児参加等について講義、質疑応答。 ※事前学習：身近な社会人にワークライフバランスについての経験や意見を聞いてくる
⑩将来のライフコースとWLBについて考えよう	ワークシート記入、自身の将来展望と困難を乗り越える方法について話し合ってみよう。 ※事前学習：ワークライフバランス推進策についてインターネット等で調査

(6) 学んだことを振り返り目標設定するワークショップ (授業×1回)

⑪自身の学習成果を振り返り発表しよう	これまでの授業を通して自分が学んだこと、将来に対する希望や目標、これからの大学生活で大事にしたい・挑戦したいこと等について一人一人発表。 ※事前学習：アクションプランを書いてくる
--------------------	--

2. 開発したもの

- 男女共同参画の視点に立ったキャリアデザイン入門プログラム (女子大の女子/共学男女/共学の女子学生支援用)
- 指導者向け資料：プログラム案、対象者・実施回数別の展開例、オンラインでのディスカッション方法、事前事後アンケート
- 教材：キャリアデザイン実習用等ワークシート、振り返りシート、キャリアモデル動画
- 普及ツール：キャリアモデル動画の紹介動画

◆実施結果：聖心女子大学「キャリアデザイン入門B」（講師 新井浩子）

1. 受講者数：47名（1年生32名、2年生6名、3年生9名）
2. 授業形態：4/23～6/8 オンデマンド授業、6/11～7/16 Zoomでの同時配信授業
3. 授業日程：○数字はプログラム案と対応。

4/23	オリエンテーション	授業説明、履修者決定、事前アンケート
5/7	将来について考えよう1 ①	講義「キャリアの概念、ライフ&キャリアデザインの必要性と目的」
5/14	将来について考えよう2 ①	事前学習「30歳の日記」 講義「キャリアデザインの方法①将来イメージを明確にする」
5/21	将来について考えよう3 ②	事前学習「逆算ライフプランニング」、講義「キャリアデザインの方法②中長期的な視野で考えよう」、事後学習：厚生労働省サイトを見る
5/28	日本の男女格差と女性の就労状況 ③	講義「国際比較に見る日本の男女平等度—働く女性の現状と課題・働く女性の権利・職場における問題等」、事後学習：身近な人と日本の男女平等度について意見交換する
6/4	ワークライフバランス（酒井委員 担当 ⑨⑩	講義「ワークライフバランス」 事後学習：企業イメージCM動画を見て賛否の意見を考える
6/8	6/11 オリエンテーション（昼休実施）	Zoom 接続テスト、オリエン、グループワーク①自己紹介②授業ふり返り
6/11	ライフコースの多様化と仕事について考えよう ⑤⑥	事前学習：これまでの授業をふり返りゲストへの質問を考える パネルディスカッション「ライフコースの多様化と仕事」（20～40代社会人3名のゲストトーク+質疑応答）
6/18	働くことと学生時代にどんな力をつけるか考えよう ④⑦	事前学習：これまでの授業をふり返りゲストへの質問を考える パネルディスカッション「学生時代の私にいま伝えたいこと」（20代社会人3名のゲストトーク+質疑応答）
6/25	人生の軸と働くときに大事にしたいことを考えよう ⑧④	事前学習：これまでの授業をふり返り話し合いのテーマを考える グループワーク：社会人ゲストトークの感想、将来を切り拓いていくうえで大事にしたい・大学生活で挑戦したいことについて話し合い
7/2	自分の強みを見つけよう ④⑧	事前学習「私のキャリアストーリー」 グループワーク①ゲストトークの感想をシェア②キャリアストーリーをシェア 講義「自己分析の方法—自分を活かし育てるには」
7/9	女性活躍促進を阻むもの（大槻委員担当）③	事前学習：講義動画視聴 グループワーク：資料文献を読む+話し合い
7/16	自身の学習成果をふり返り発表しよう ⑪	事前学習「アクションプラン」 グループワーク：これまでの授業を通して自分が学んだこと、将来に対する希望や目標、これからの大学生活で大事にしたい・挑戦したいことについて話し合い

4. 社会人パネルディスカッションの内容について

①6/11「ライフコースの多様化と仕事」

- ・ゲスト3名：20代聖心OG、富士通営業職 / 30代早大OB、転職後独立して現NPO代表 / 40代女性、転職、不妊治療を経て出産、育児経験、再就職経験
- ・オリエンテーション後に、ゲストを紹介。3名に学生時代から現在までのキャリアヒストリーを語ってもらう。その後、各時期の選択や考えたことが明確化するよう新井から質問し答えてもらう。その後、学生からチャットで寄せられた質問にゲストが答える。さらに新井から質問・ゲストとやりとり。新井からまとめのコメントをし終了。

②6/18「学生時代の私にいま伝えたいこと」

- ・ゲスト3名：社会人2年目、日大OG、ベンチャー企業 / 社会人4年目、慶応OB、転職し現リタリコジュニア、学生時代からNPO原っぱ大学に参加 / 社会人3年目、聖心OG、トレンドマイクロ・マーケティング、既婚
- ・オリエンテーション後にブレイクアウトセッションに分かれて前回の感想をシェア。その後、ゲストを紹介。以降は①と同様。

5. 授業全体をふりかえっての学生の感想

- ・ブレイクアウトルームで話し合いをすると、12回分ほぼ全ての振り返りができて、さらに、自分の考えを深めることができたのでとてもより良い時間を過ごすことができました。(略) 将来の夢を決めなきゃやばいと焦るのではなく、まだ自分探しの時間はたくさんあるから焦らずにねと自分に言い聞かせようと思いました。私は将来海外で働くというのが大雑把な夢です。今回は日本の女性の働き方を学んだので、今度は自分の働きたい国の女性と男性の関係を自主的に調べようと思います。また、知るだけでなく、日本との共通点、相違点を見つけたり、様々な文化を持つ国の社会環境、労働環境も調べてみたいです。前期の授業を受けてきた中で、この授業が一番充実していたと感じるし、大学生ばいことしているなあと実感することができました。もし、来年自分の将来に不安があり、自信がなかったらまたこの授業を選択したいと思いました。この授業は私にとってとても実り多い授業でした。(1年生)
- ・ゲストの方のライフプランを見て聖心女子大学卒業の先輩が大企業の総合職に就職していたことに驚きました。自分の頑張り次第で大企業にも就職できる可能性があることを知り少し考えの幅が広まった気がします。そして結果を残すことの重要性に改めて気づきました。学歴や経歴がすべてではなくいかに自分が主体性を持って様々なことに取り組んできたのか、そしてどのような結果を残しどのようなことを学んだのかという点をうまく伝えることが非常に大切だと思いました。(略) 大企業が必ずしも安定というわけではないということも知れました。私たちはいくつになっても仕事を独立したりと変えることができるのだなと思いました。子供を授かっている方のお話も聞くことができ世間とお母さんの考えのずれや働くことと子育ての大変さを知ることができました。今後の人生設計に役立つ情報がたくさん聞けて良かったです。(1年生)
- ・社会人の方々のお話を聞き、感じたことをみんなで共有できて改めて非常に有意義であったのだと思いました。みんなと意見交換をすることで自分が気づけなかったことにも気づかされ、さらに学びが深まった(略) 短所に目が行きがちですが価値観によってそれを長所ともとらえることができるという言葉にすごく納得し、これからは一生懸命長所を伸ばしたいと思いました。そして改めて私が残してきた結果とは何だろうと、賞や大きな大会への出場経験のなさに不安になっていましたが(略) それだけが重要なことじゃないと知り少し自信が持てたような気がします。(1年生)

6. プログラムの評価と課題について

- ・ふり返しシートの記載から、テーマや問題提起が学生のニーズに合致していたことが検証でき、学習内容の妥当性が確認できた。
- ・教育方法については、Zoomによる同時配信授業とオンデマンド授業を組み合わせ実施した。なかでも、Zoomで実施した社会人パネルディスカッションと、各授業内で実施したブレイクアウトセッションでのグループワークへの満足感が高かった。また、グーグルフォームで作成したワークシートなどはスマートフォンでも記入できる点が使いやすかったと評価された。
- ・課題としては、オンラインでのグループワークの方法一特にファシリテーターの有効性である。オンラインでは、時差、通信状況によりコミュニケーションがとりにくいので、活動内容を明確に提示したが、それでも話し始めが難しいという声が多くあったため、学年混合グループを作り上級生に司会役を頼むことで有意義なディスカッションが可能となった。ただし、この方法では下級生が質問し上級生が答えるという役割が固定化しやすいこともわかった。ファシリテーター役を担い合うことを可能にすることが課題である。

7. 展開例

- ・展開の実施は大東文化大学（福井庸子担当）、早稲田大学（新井浩子担当）で実施（オンデマンド・同時配信）

◆大東文化大学における検証について

講師：福井庸子（大東文化大学）

1. 授業目的

大学から社会に出ていく際に、主体的に自らの人生を切り開く力の涵養を目指す。

具体的には、進路決定にむけての様々な視点を提示、自らの想いや考えを言語化すること、他者と共有する作業を取り入れる。こうした手法を取ることによって自分自身の考えている事を客観視、意識化するのみならず、多様な価値観の理解を試みる。

2. プログラムのポイント（想定される効果）

- ・現代社会における働き方について多方面から検討することにより、社会そのものへの関心と理解を深める。
- ・自分の思いを言語化し、他者と共有することで、自分自身の進路に対する考え方や価値観を意識する。
- ・ジェンダーやワークライフバランスについての知識を得ることにより、自らの生き方や日々の振る舞いを省察する。
- ・様々な社会人や卒業生の経験を聞いたり、質疑応答に参加することによって、人生における選択肢の幅を広げると同時に、多様な価値観が存在していることに気が付く。
- ・ワークルールに関する知識を得ることで、自らの身を守る術を知るとともに、権利に対する理解を深める。

3. 講義方法

本講義では基本的に資料の提示、課題提出を中心に授業を進める。教員からの音声や動画は配信しないが、レジュメには音声による説明と同等の情報量を盛り込む。また、一部、録画したインタビュー動画なども盛り込む。学生は教員から提示されたレジュメを読んだ後、講義に関連する課題に取り組み、翌週までに提出する。

4. 授業内容

(オンライン版)「キャリアデザインB—しごと・能力・ライフデザイン」

○数字はプログラム元案と対応。太字は本事業該当

1	5/7 5/8	授業ガイダンス	・大学と高校の就職活動の違い ・アンケートの実施
2	5/14 5/15	親密な関係から社会的関係へ ① ④	・人生における役割 ・自分を表現するのはなぜ難しいか 《課題》 自分について書くワーク (自分は何をしたいのか、欲しているのか)
3	5/21 5/22	就職活動におけるマナー・試験の内容	・メール、挨拶、試験の内容の概要説明 《課題》メールを書いてみる
4	5/29 5/30	インターンシップとは何か	インターンシップの目的と概要 《課題》、SPIをはじめ、自分の進捗状況をまとめる
5	6/4 6/5	多様なはたらき方 (正規雇用と非正規雇用) ⑥	・正規雇用と非正規雇用の実態 ・転勤をどう考えるか 《課題》 レジューメヤ提示された資料を読んで考えたことをまとめる
6	6/11 6/12	企業や職場の調べ方 ① ⑧	・企業や職場をどのように探すか/何を重視するか
7	6/18 6/19	実際の求人を見てみよう ④⑧	・給与の見方、人を大事にする会社か、成長が見込める会社か 《課題》求人ナビから2社提示、分析しどちらが魅力的か、その理由を記述
8	6/25 6/26	ワークライフバランスを考える (1)③⑥⑨⑩	私の未来日記 《課題》未来日記の提出
9	7/2 7/3	ワークライフバランスを考える (2) ② ⑥⑨⑩	・未来日記のリフレクション・産前産後育児休業、介護休業等の説明・女性の就労状況・CMの分析 《課題》未来日記の感想・CM比較の意見
10	7/9 7/10	多様な価値観・生き方(1) ③ ⑧	・キャリアインタビュー (聖心、早稲田との共有動画) を見てまとめる動画配信 《課題》キャリアインタビューを見た感想・身近人へのインタビュー
11	7/16 7/17	多様な価値観・生き方(2) ④ ⑧	・多様な生き方から学ぶ—30代・40代のコメント集から— 《課題》コメントを読んだ感想をまとめる
12	7/23 7/24	ワークルールを知ろう(1) ⑤ ⑩	・ワークルールとは何か、具体的な事例から学ぶ 《課題》授業を聞いて考えてことをまとめる
13	7/30 7/31	ワークルールを知ろう(2) ④⑩	・生き抜くためのワークルール—こんな時どうする?—
14	8/6 8/7	これからの生き方を考える ⑪	・これまでの授業を通して自分が学んだこと、将来に対する希望や目標、挑戦したいこと等まとめる 《課題》アクションプランを書く、この講義を通して考えたこと

5. 受講者数

キャリアデザインB (木・2) 69名 (女子20名・男子49名 / 3年生46名・4年生23名)

キャリアデザインB (木・3) 99名 (女子33名・男子66名 / 3年生75名・4年生24名)

キャリアデザインB (金・2) 131名 (女子64名・男子67名 / 3年生103名・4年生28名)

6. 学生の感想（教員による集約）

授業全体を通じた感想として最も多かったのは、以下の3点である。

第一は、自分自身の意志を尊重して進路を決定しても良いという感想である。本学学生は、周囲の要望や、企業の求める像に自分自身を合わせなくてはならないと考える傾向があり、その結果、就職活動が非常に気の重いライフイベントとなっていた。しかしオンライン授業を導入することで、多数の社会人や卒業生の意見を聞くことが可能となり、彼らの人生を聞くうちに、自分の想いを大切にしていいたいということを感じ取り、卒業後の進路に対するネガティブな感情が軽減したという感想が多く見られた。

第二は、転職への印象が変化したという点である。社会に出たことがない学生にとって最初の就職先は、人生の全てを決定するくらい大きな意味を持っているようで、そのことがかえって進路選択の重荷になっている節があったが、多様な生き方を学ぶなかで、その時々において進路の選択が可能であることを学んだ様子である。

第三は、一消費者の視点から就職先を見るのではなく、社会における役割を意識して就職先を検討する眼差しを得たという感想である。こうした眼差しを持つことで、企業の将来性や自分自身の組織内での役割を考える機会をなつたという意見が見られた。

7. プログラムの評価と課題について－担当者所見

・前半は、主として就業を中心に扱っている。教育学的な見地だけでなく、できるだけ学生が現段階で動き出せるよう大東文化大学のキャリアセンターの情報提供を得ながら、より具体的なプロセスについて提示してきた。またあわせて、学生が卒業後に、社会的に孤立したり、不利益な立場に陥らないためにどう対処すべきか、何に気を付けるべきかについてもワークルールを含め講義した。なお、卒業生の就職活動に関するメッセージやインタビューも複数、紹介し、学生からは、精神的に気持ちが楽になったという感想が多く提出された。

後半はワークライフバランスに軸足を移し、今後の生活において、いかに生きるかを考える契機とした。まず、自分自身の価値観を考えるワークを行った。その後、データ等を通してワークライフバランスに関する現状を解説し、社会人へのインタビュー動画等を配信、その感想を共有した。子育て中の女性へのインタビュー記事、聖心女子大学、早稲田大学との共有動画の社会人（20代）インタビュー動画は非常に好評で、就職から先の人生を想像することが困難であるがゆえに、漠然とした不安が増幅されていた学生にとって、個々の人生とその思いを聞くことは、ポジティブなメッセージになったようだ。

・本授業は男女に対して開講された。男女間の感想には大きな相違は見られなかったが、ワークライフバランスに関しては、社会人のインタビュー（動画・紙面インタビュー）や、様々なデータを提示することを通して、男女ともに、現代社会における男女の家事育児の不平等への気付きと憤りが率直に語られていた。同時に、自分の身の回りのジェンダーについても意識する機会となったようで、家庭内での両親の振る舞い（母親が食事を用意し、片付ける等）を当然としてきた自分自身の行動を変容したいという意見が特に男子に多く見られた。また、進路選択においても結婚や出産といったライフイベントを視野に入れて就職先を検討したいという感想も多かった。社会そのもののあり方を自分たちの世代が変えていきたい、という意思が男女共通して見られ、社会に参画する一員としての気概が感じられた。

◆早稲田大学における検証について

講師：新井浩子・矢口徹也

1. 授業目的と到達目標

女性の仕事、生活に関する現代的課題を理解し、自分自身の将来の働き方・暮らし方を考える。就職に向けた「対策」ではなく、大学卒業後の働き方・暮らし方について様々な視点から考える機会を提供する。その上で大学時代にどんな力をつけるべきかも考えてもらう。

到達目標①女性の仕事・生活に関する現代的課題を理解し、自身の将来を具体的に考える。②自分が何に困っているか、何を知りたいのか、話し合いを通じて考える力をつける。③課題を意識した上で解決に向けた方法を考え、そのための活動を企画する。

2. 実施報告

(1) 受講者数：38名（1年生3名、2年生10名、3年生16名、4年生以上9名）

(2) 授業形態：オンライン授業（オンデマンド授業）

(3) 授業日程 ○数字はプログラム元案と対応。斜字は授業時間外実施。太字は本事業該当

女性・しごと・ライフデザイン

5/15	授業ガイダンス	授業説明、事前アンケート
5/22	将来について考えよう1 ①	講義「キャリアの概念、ライフ&キャリアデザインの必要性と目的」
5/29	将来について考えよう2 ①	事前学習「30歳の日記」 講義「キャリアデザインの方法①将来イメージを明確にする」
5/30	<i>OG主催交流会1(希望者のみ)</i>	<i>OGを囲んで交流</i>
6/5	将来について考えよう3 ②	事前学習「逆算ライフプランニング」、講義「キャリアデザインの方法②中長期的な視野で考えよう」、事後学習：「課題分析」
6/12	女性活躍促進を阻むもの（大槻委員） ③	講義「なぜ女性管理職は少ないのか」、課題「女性管理職の声から考える」を読んで問題に答える
6/12	パネルディスカッションーライフコースの多様化と仕事⑤（⑥）	動画視聴「パネルディスカッション『ライフコースの多様化と仕事』」、 課題：レビューシート記入提出
6/19	家族と法律（法学学術院教員）	講義「家族を支える法制度や法政策の変遷と家族法の課題」
6/26	しごと・家族（文学学術院教員）	講義「女性のライフコースと多様性」
7/3	ワークライフバランス（酒井委員） ⑨（⑩）	講義「ワークライフバランス」 事後学習：企業イメージCM動画を見て賛否の意見を考える
7/10	20代社会人パネルディスカッションー 学生時代の私にいま伝えたいこと ④⑦	動画視聴「パネルディスカッション『学生時代の私にいま伝えたいこと』」 課題：レビューシート記入・提出
7/17	OGトーク 結婚・子育て・しごと	講演録「ワーキングマザー対談」（30代OGの学生から現在までのキャリア・出産育児と就業経験等）を読む、事後学習：結婚・家族のあり方の多様化、日本の女性と就業の変化、女性の生涯にわたる健康等についての考えを書く
7/24	OGトーク多様なキャリア形成と人生の軸	講演録「学生時代からのライフプランニング」を読む、事後学習：多様なキャリア形成と人生の軸についての考えを書く
7/31	これからの働き方・暮らし方について考えよう ⑪	事前学習「アクションプラン」、グループワーク：これまでの授業を通して自分が学んだこと、将来に対する希望や目標、これからの大学生活で大事にしたい・挑戦したいことについて話し合い、事後アンケート
8/2	<i>OG主催交流会2(希望者のみ)</i>	<i>OGトーク（学生～就職、転職、地方勤務、育休復帰経験）、グループワーク（学</i>

3. 学生の感想

以下のように、多様な社会人の体験談を聴くことができ視野が広がった、将来イメージを持てるようになった、ライフデザインの方法を具体的に知ったことが良かったという声が多かった。

・さまざまな方の”学生時代”からのライフプランが聞けたことは大変有意義であった。今の自分を含め周りの大学生は、将来に見えない不安を抱え、誰も答えや参考を持たない状態で路頭に迷っている。しかし、こうして世代が近い方々が等身大の人生をお話しして下さることで、自分の選択のヒントになるものが多かった。(2年)

・就職・家庭に対する価値観だけではなく、人生そのものの価値観についても知ることができたこと。これから人生の決定をする上では、自分の軸が大事になると思ったが、その軸の形成の仕方、バリエーションについても知ることができたので視野が広がり再現性が高まったと考えている。(3年)

・ライフデザインの仕方を学べたことが良かったです。これから、自分のやりたいことや進みたい道が変わっても、ライフデザインのやり方を学んだので、その実現に向けた計画を自分で立てられると思います。(2年)

4. プログラムの評価と課題について－担当者所見

・授業はオンデマンド型で実施し、双方向授業の代替としてOGとの交流会を自由参加で2回実施し、好評だった。交流会は本授業のOGたちが企画・開催してくれたもので、Zoomを使った研修や会議の実施経験が豊富なものもあり、オンラインでのディスカッション方法等について学ぶ良い機会になった。社会人が参加しやすいのはオンラインの利点である。

・社会人パネルディスカッションは、卒業生以外の多様な立場の人の話が聞けたという点で好評だった。女性管理職(大槻委員)、ワークライフバランス(酒井委員)の講義は、初めて取り入れたテーマであったが好評だった。

・本授業は、オンデマンドで実施したため、学生同士のディスカッションをしたかったという声が多数あったことが課題である。

◆聖心女子大学における実施について

講師：大槻奈巳（聖心女子大学）

*コロナの影響による変更点

・対面ではなく、オンライン・オンデマンドで実施する。各回授業の最初の10分間のみWeb会議システムgooglemeetを用いての同時配信授業の形式で前回授業の振り返り、質問等への対応を実施した。

*2019年度は、①管理職の女性1名（40代後半）、管理職女性と同じ部署の入社3年目の女性（卒業生）、②30代前半の働いている女性（卒業生）に授業にきてもらい、仕事やキャリアについて話してもらい（2回分）、②自分で働いている人にインタビューを行う、③キャリアを比較分析する、としたが、2020年度は、オンライン授業となったので、①ロールモデルの資料を読む、②キャリアデザイン入門Bで作成したキャリアモデル3名の動画を見る、③自分で働いている人にインタビューを行う、④キャリアを比較分析する、プログラムにした。

1. 講義目的

働くことや職業的キャリア形成のイメージがつかみにくい大学生を対象に、将来の仕事や働き方について、①キャリアモデルからの話、②社会人へのインタビュー、③働き方や生き方の比較分析、を通して考える。働くことを切り口に自分がどんな人生を歩んでいくか、自分の行きたい方向に自分を主体的にもっていき力～切り拓く力を考える機会とする。

2. プログラムのポイント（想定される効果）

- ・ロールモデルを持つことの意義を認識する。
- ・キャリアモデルの話から、働くことの具体的なイメージを得る。
- ・同じ企業で働き続ける良い点や働き続けられる工夫について考える機会とする。
- ・社会人へのインタビューの実施、他のインタビュー対象者との比較分析を通し、様々な働き方や生き方があること、それぞれの人々の工夫や乗り越える力について学ぶ。
- ・働くことを切り口に、自分の今後の生き方について考える機会とする。
- ・講義を通じて、キャリアモデルの話や社会人へのインタビューの実施を通し、仕事や働くことへの理解を深め、自らつくっている壁について考え、今後の主体的行動を促進する。

*聖心生は、働き続けるイメージを持ちにくい、自分の母親のライフコースを標準と捉えるというような傾向があるが、キャリアモデルの話から学生たちが自分の視野の狭さや思い込みに気づききっかけにするにする。

*この授業をとおして、学生には人生を切り拓く力を考えてほしい。人生を切り拓く力とは、自分の行きたい方向に自分をもっていける力である。前提を問い、自分の行きたい方向に行くにはなにが障害なのかを見極め、障害をどう乗り越えるかを考え、必要な支援、得られる資源を把握し、支援や資源を活用しつつ、自分の人生を主体的に自分の希望の方向にもっていき力である。

学生が、人生をどう生きるかを深く考え、自分の行きたい方向に自分を主体的にもっていき力を考える機会にする。

この点が学生にわかるようにキャリアモデルに話をしてもらい、また質問をする。

3. プログラム案

職業社会学1 (各回 100分×3回)

回数、テーマ	内容
(1) ロールモデルをもとう	羽田野慶子 2014「ロールモデルをもとう」岩上真珠・大槻奈巳編著『大学生のためのキャリアデザイン入門』有斐閣を用いて、ロールモデルを持つことの意義を考える機会とする。学生はこの文献をよみ、課題に答える形でロールモデルについて学ぶ。
(2) キャリアモデルの話	20代3名のキャリアモデルの話をきき(オンライン・オンデマンド)、大学で学んだことと現在の仕事、入社して大変だったこと、仕事の意義、自分なりのキャリアのありかた、生きることの意味などを考える機会をする。
(3) 働いている人へのインタビューの実施 (学生が次回までに各自実施一冬休みに実施する)	30歳以上の働いている社会人に対して、インタビューを実施し、主に職業的キャリア形成についてきき、(具体的には、日本的雇用システムの実際、仕事内容、仕事のやりがい、困難を乗り越え方、WLB、今後のキャリアのあり方など)、社会の変化や企業での働き方の変化のなかで、どのようにキャリア形成してきたのかその特徴を分析する。 第一回の「ロールモデルをもとう」で学んだ「キャリア年表」を作成し、分析の際に用いる。
(4) レポートの作成: 働くことの比較分析	3名のキャリアモデルと自分のインタビュー対象者のキャリア形成について比較分析する。働くことを切り口にして、自分がどんな人生を歩むかを考える機会とする。

4. 各回の内容について

(1) 第一回「ルールモデルをもとう」

資料：羽田野慶子 2014「ロールモデルをもとう」岩上真珠・大槻奈巳編著『大学生のためのキャリアデザイン入門』有斐閣

- ・指定の資料をよみ、ロールモデルの意義について考える。
- ・課題に答えるなかで、ロールモデルの意義について確認する。

(2) 第二回「キャリアモデルの話」

- ・20代3名の話+ディスカッション(オンライン・オンデマンド)
- ・20代3名の方の話から、大学で学んだことと現在の仕事、入社して大変だったことなどを考える機会をする。

(3) 第三回 働いている人へのインタビューの実施(学生が次回までに各自実施一冬休みに実施する)

30歳以上の働いている方にインタビューを行う。男女どちらでも可。インタビュー対象者の「キャリア年表」を作成する。

② 質問内容

- ・仕事の内容
- ・雇用形態について(日本的雇用システムとの関連について)
- ・なぜその仕事に就いたのか

- ・その仕事につくまでの経歴
- ・その仕事の好きなところ、やりがい
- ・その仕事の大変なところ
- ・その仕事の特徴
- ・仕事における転機、困難の乗り越え方
- ・その仕事を行う人へのアドバイス
- ・今後のキャリアのあり方について

*インタビューメモを次回の授業に持参する

(4) 第四回 仕事やキャリア形成の比較分析

キャリアモデル3名と自分が実施したインタビュー対象者の仕事内容やキャリア形成を比較する。

- ・雇用形態（正規非正規）自営か雇用者か、転職の有無、家族の状況、性別、仕事の内容（営業職、事務職、専門職、管理職の特徴、人を対象にする仕事かそうでないかなど）などを切り口に比較する。
- ・障害があった場合どのように乗り越えたのかを比較する。
- ・（組織のなかや自分自身で）どのようにキャリアを形成したのかを比較する。
- ・インタビューの共有、比較をもとに、キャリアモデルとの比較を行う。

*上記をまとめたものをレポート課題として提出する。

課題；「仕事について考える」A4 4枚以上40字×36行一手書き不可。

5. 実施について

日時：2020年12月8日、15日、2021年1月19日、各回100分（13時30分～15時10分）

+冬休みに各自で実施する、働いている人へのインタビュー

履修者数：97名

6. 学生の感想

- ・レポートで比較を行なった3名のように自分から様々な仕事や知識を知り挑戦してみるということが大切なのだと思ふことができた。
- ・自分のライフコースを設定する際にジェンダーを気にせず自分が進みたい方向に進んで良いのだと自信が持てました。まだ女性の働き方に関する様々な問題が残っていることも知りましたが、それを解決していくための対策も多く考えられていることも知り希望が持てました。
- ・多くのゲストスピーカーのお話もとても参考になり、有意義な時間を過ごすことが出来た。今後、自分自身でできることを積極的に行い、社会に貢献することができる女性になりたいと思った。
- ・社会人の先輩のキャリアの話聞き、転職のイメージが自分の中で変化し、インターンには必ず参加しようと思えた。そして、就職する上では、その会社の持つ企業理念や、制度に重点を置く必要性も自分の中で見いだせた。何よりも自分のなりたい姿を少しずつですが、具体的にしていこうという意識の変化が大きかった。
- ・私は今まで自分がしたいことを仕事にしたいと思っていましたが、キャリアデザインやインタビューを通して大学生時代の経験や知識が今後を左右すると改めて感じました。
- ・社会に出た先輩たちの話を聞くことができたのはとてもよかったです。生の声を聞ける機会はあまりないのでこれからの就職活動やインターンに向けて少し目標が立てられたと思います。

7. プログラムの評価と課題について

・コロナ禍において、最初の 10 分のみ、同時配信オンラインで実施、授業内容はオンラインのオンデマンドで実施したが、学生は多くを学んでいた。

・2019 年度は、①管理職の女性 1 名、管理職女性と同じ部署の入社 3 年目の女性（卒業生）、30 代前半の働いている女性（卒業生）に授業にきてもらい、仕事やキャリアについて話してもらい、を授業の 2 回分で実施、②自分で働いている人にインタビューを行う、③キャリアを比較分析する、としたが、2020 年度は、オンライン授業となったので、①ロールモデルの資料を読む、②キャリアデザイン入門 B で作成したキャリアモデル 3 名の動画を見る、③自分で働いている人にインタビューを行う、キャリア年表を作成する、④キャリアを比較分析する、というプログラムにした。

・昨年度と比べて、キャリアモデルの年齢が 20 代後半となり、就職活動や会社選びなども話の内容の大きな部分を占めた。就職活動をひかえた学生たちにとっては、大変参考になる話ではあったが、生き方を考えるという要素がややうすまったかもしれない。

・インタビュー対象者のキャリアを分析する際に、「キャリア年表」を作成した。また、「キャリア年表」については第一回の「ロールモデルをもとう」で学んでいた。この作業をいれたことは、学生がキャリアを分析する一助となった。

・キャリアモデルの動画は、学生たちは対面でなくても違和感なくみているようで、動画作成をしてよかった。

・今年度は、初回に「ロールモデルをもとう」として、ロールモデルについて書かれた文献を読んだが、学生たちにとっては、参考になったようでよかった。

8. 開発するもの

a) 大学生が社会人の話をきき、社会人にインタビューし、生き方を分析するキャリア教育プログラム。

b) 指導者向け資料：プログラム案、対象者別の展開例、キャリアモデルへの質問案、事前事後アンケート。

c) 教材：キャリアモデル質問項目作成用ワークシート、インタビュー調査結果報告用ワークシート、授業のふり返しシート。

9. 展開例

・展開の実施は千葉商科大学（酒井計史担当）で実施（オンライン・オンデマンド）。

・千葉商科大学「日本現代社会論」（授業科目）100 分×2 回+インタビューの実施、履修者数 117 名。

・キャリアモデルの話、働いている人へのインタビューを通し、働くことの意味、人生を切り拓く力を学ぶ。

・当初、女子大学用、男女共学大学用のプログラムを作成する予定であったが、千葉商科大学での検証の結果、別プログラムを作成する必要がないことがわかった（キャリアモデルが 20 代の場合、ジェンダー差がまだ小さく、男子学生にも十分応用できた。また、男子学生にとっては、男女のライフコースの違いの理解を深めるなど効果もあった）。

◆千葉商科大学における検証について

講師：酒井計史（労働政策研究・研修機構）

*コロナの影響による変更点

・対面ではなく、オンライン・オンデマンドで実施する。各回授業の最初の30分間のみWeb会議システムMicrosoft Teamsを用いての同時配信授業の形式で、質問等への対応を実施した。

*当初予定は、聖心女子大学で実施した①管理職の女性1名（40代後半）、管理職女性と同じ部署の入社3年目の女性（卒業生）、30代前半の働いている女性（卒業生）に授業にきてもらい、仕事やキャリアについて話してもらったものの録画し、それを視聴し、②自分で働いている人にインタビューを行う、③キャリアを比較分析する、であった。

2020年度秋学期はすべてオンライン授業となったので、①近年のキャリアの変化について動画などをみて学ぶ、②キャリアデザイン入門Bで作成したキャリアモデル3名の動画を見る、③動画3人のキャリア年表を作る、④自分で働いている人にインタビューを行う、⑤キャリアを比較分析する、プログラムに変更した。さらに、2021年1月の緊急事態宣言発出により、大学の感染対策の対策指針や学生からの意見に基づき、④自分で働いている人にインタビューを行うプログラムは原則中止とし、動画のキャリアモデル3名の比較分析をするプログラムに変更した。ただし、十分な感染対策を行ってインタビューできる環境にある学生は当初の予定でどおりインタビューを行って比較分析よいことにした（インタビューを実施した学生は114名中1名）。

1. 講義目的

働くときに私たちが直面する問題や困難、働くことの意味、人々の生き方（ライフコースやキャリア）の現状について講義と実際に働いている人の話を聞いたり、自分で聞き取りしながら考え、社会の変化のあり方や現代社会を多角的に捉える視点を養う。自分のキャリアは、社会社会の（変化）と切り離せない関係にあることを理解し、家族を形成すること、働くことの意味と意義を考えながら、自らの特性、経験、希望等を掘り下げ、それらを生かす自分らしいキャリアを考えることで、現代社会を多角的に見ることができるようになることと、他者の話を聞く、他者と話し合いながら考えることの重要性を体験し、それを自分の学びにつなげられるようにする機会を提供する。

2. プログラムのポイント（想定される効果）

- ・キャリアモデルの話から、働くことの具体的なイメージを得る。
- ・同じ企業で働き続ける良い点や働き続けられる工夫について考える機会とする。
- ・社会人へのインタビューの実施、他のインタビュー対象者との比較分析を通し、様々な働き方や生き方があること、それぞれの人々の工夫や乗り越える力について学ぶ。
- ・働くことを切り口に、自分の今後の生き方について考える機会とする。
- ・講義を通じて、キャリアモデルの話や社会人へのインタビューの実施を通し、仕事や働くことへの理解を深め、自らつくっている壁について考え、今後の主体的行動を促進する。

*本講義の履修者は1・2年生が主体のため、就職活動を不安に思っている学生が多いが、就職後の働き続けて生きていく具体的なイメージを持ちにくい、自分の親のライフコースを標準と捉えるというような傾向があるが、キャリアモデルの話から学生たちが自分の視野の狭さや思い込みに気づくきっかけにする。学生が、変化する社会のなかで、人生をどう生きるかを深く考え、自分の行きたい方向に自分を主体的にもっていき力を与える機会にする。

3. プログラム案

日本現代社会論（各回 105 分×3 回）

回数、テーマ	内容
(1) 働くことの意味、近年のキャリアの変化	「職業の三要素」や「パラレルキャリア」について動画を交えながら講義（同時中継講義）
(2) オンラインパネルディスカッション～キャリアモデルの話および質疑応答の録画の視聴	20 代 3 名のキャリアモデルの話をきき（オンデマンド・録画）、大学で学んだことと現在の仕事、入社して大変だったこと、仕事の意義、自分なりのキャリアのありかた、生きることの意味などを考える機会をする。
(3) キャリアモデル 3 人のキャリア年表の作成 (or 働いている人へのインタビューの実施) (学生が各自冬休みに実施する)	指定の資料を読み、ロールモデル 3 人のキャリア年表を作成。具体的には、仕事内容、仕事のやりがい、困難を乗り越え方、パラレルキャリア、WLB、今後のキャリアのあり方など、社会の変化や企業での働き方の変化のなかで、どのようにキャリア形成してきたのかその特徴を分析する。(or、30 歳以上の働いている社会人に対して、インタビューを実施し、主に職業的キャリア形成についてきき、分析する)
(4) レポートの作成：働くことの比較分析	3 名のキャリアモデル (or と自分のインタビュー対象者) のキャリア形成について比較分析する。働くことを切り口にして、自分がどんな人生を歩むかを考える機会とする。

4. 各回の内容について

(1) 第一回「働くことの意味、近年のキャリアの変化」

- ・働くことの意味を職業の三要素から理解し、パラレルキャリアとは何かを学び、副業やプロボノについて紹介したニュース番組の動画を視聴する。
- ・動画をみて、働くことの意味とパラレルキャリアの関連について考える課題を行い提出する。
- ・次回以降の作業の指示。羽田野慶子 2014 「ロールモデルをもとう」岩上真珠・大槻奈巳編著『大学生のためのキャリアデザイン入門』有斐閣を配布し説明

(2) 第二回「オンラインパネルディスカッション～キャリアモデルの話および質疑応答の録画の視聴」

- ・20 代 3 名の話+ディスカッション+その後の質疑応答の録画の視聴（オンライン・オンデマンド）
- ・20 代 3 名の方の話から、大学で学んだことと現在の仕事、入社して大変だったことなどを考える機会をする。

(3) 第三回 「キャリアモデル 3 人のキャリア年表の作成 (or 働いている人へのインタビューの実施)

- ・学生が次回までに各自実施～冬休みに実施する
- ・ロールモデル 3 名のキャリアの年表を作成する (or 30 歳以上の働いている方にインタビューを行う。男女どちらでも可)
- ・年表の項目 (実例)

職業(勤務先):

現在年齢:

年齢	学習・活動 (学校・生涯学習・地域活動など)	仕事(職業キャリア)	パラレルキャリア	家庭生活・WLB・ その他

※キャリアの障害となる出来事や失敗等も書き込む。

・インタビューする場合の質問内容

仕事の内容、雇用形態について(日本的雇用システムとの関連について)、なぜその仕事に就いたのか、その仕事につくまでの経歴、その仕事の好きなどころ、やりがい、その仕事の大変などころ、その仕事の特徴、仕事における転機、困難の乗り越え方、その仕事を行う人へのアドバイス、今後のキャリアのあり方(パラレルキャリア、家族形成、ワークライフバランス)について

(4) 第四回 仕事やキャリア形成の比較分析

- ・キャリアモデル3名(or と自分が実施したインタビュー対象者)のキャリア形成を比較する。
- ・学習・活動(学校・生涯学習・地域活動など)、就職活動、転職の有無、家族の状況、性別、仕事の内容(営業職、事務職、専門職、管理職の特徴)、働くことの意味をどう考えているかなどを切り口に比較する。
- ・障害があった場合どのように乗り越えたのかを比較する。
- ・(組織のなかや自分自身で)どのようにキャリアを形成したのかを比較する。
- ・各人の共通点、相違点に着目する。

*上記をまとめたものをレポート課題として提出する。課題:「キャリアの比較分析」A4 1~3枚 40字×40行

5. 実施について

- ・日時:2020年12月7日(第一回)、14日(第二回)、2021年1月18日(第四回)、各回105分(11時55分~12時40分)
- ・第三回は冬休みに各自で実施する、(年表分析 or 働いている人へのインタビュー)
- ・履修者数:114名(男性74名、女性40名)

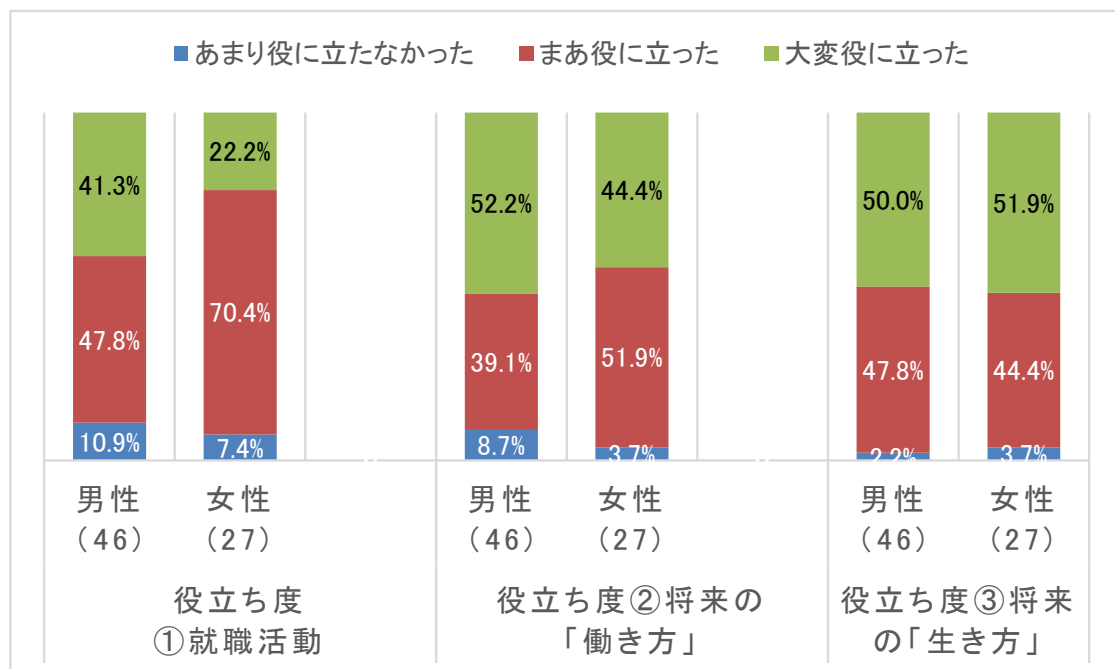
6. 学生の感想

- ・実際に対面で会わなければ良く分からないと考えていたがいつでも閲覧できるのは良いと思いました。(男性1年)
- ・実際にその人が話しているのを聞いたため、内容が正確にまとめやすかった点が良かった。質疑応答の動画があったのも良かった。(女性1年)
- ・自分のモチベーションや、今後の考え方を考えていく上で参考となった。経験が豊富な人が多かったため、多方面の考えが見えた。(男性1年)
- ・他の人の生き方をよく知ることができて参考になりました。普段、人に今までの生き方を詳しく聞く機会がないので、貴重な経験だと思いました。(女性3年)
- ・比較分析といっても、相違点はもとより、共通点がとてもわかりやすかった。もとい、3人の考え方において、共通点を探すことに難しさを感じなかった。(男性2年)
- ・同世代の人たちがどんなことを考え、どんなキャリアを歩み歩もうとしているのかを知ることができてよか

ったです。普段は同世代の人たちからの話は意外と聞けないので、貴重な時間でした。（女性3年）

- ・比較分析することで、その人の人生の選択だけでなく、考え方や生き方、軸などを知れて、とても参考になった。そして、こういう考えをあるから、自分も取り入れていきたいと思う。（女性3年）
- ・相手の話を聞くことで、自分が本当に何がやりたいのか確実なものにならなくてもきっかけとして自分に新しい情報が入ってくればそれが成長へとつながると感じた（男性4年）
- ・女性キャリアがどのようになっているのかがわかることがよかったです（男性4年）
- ・その人の人生を表にすることで、ターニングポイントなどが分かりやすくなったと感じた。（女性3年）
- ・パネルディスカッションで聞いたことをもとに人生年表を作ることが良いと感じました。聞いた内容を自分で年表にまとめることでその人がいつどのような経験をしたのかを整理することができ、自分のこれからの大学生活に参考にしようと思えることが出来ました。（女性1年）
- ・パネルディスカッションの人たちが学生の時に、どのように将来を見据えていたか、そしてそのためにどのような行動を実践していたのかを自分が今していることや今後の目標として一つの手本となったのでそういったことを表にして講義を行ってくださったことがとてもためになりました。（男性1年）
- ・パネルディスカッションを行うことで人のキャリアデザインの比較をしてみることで今後目指してみたい方向性が具体的に視認することができたと思う（男性3年）
- ・まだ就職についてははっきりとしたビジョンが見えていないので就活はいつから始めればいいのか、またインターンはいつから始めればいいのか等不安に思うことが多くありました。パネルディスカッションの作業を行うことによりもう動く必要があるということがわかり自身の就活に生かすことができました。（女性2年）
- ・今回のパネルディスカッション関連の作業で、将来のことや就職の流れなどを知る事が出来、今後の将来に対する考え方や自分自身のキャリアデザイン上の課題を把握する事が出来たので、有意義で自分の成長に繋がるものとなったので良かった。（男性3年）

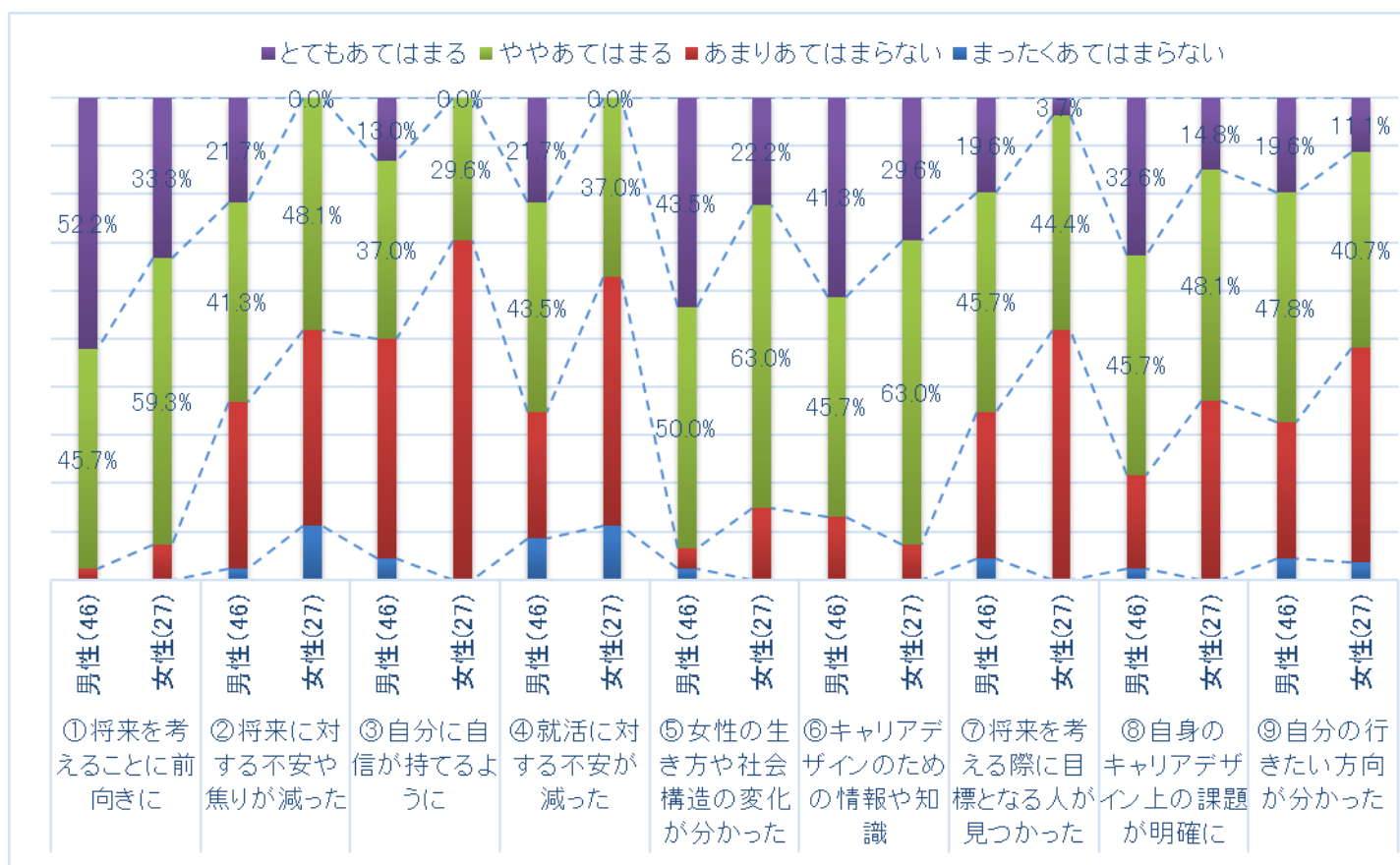
図1 オンラインパネルディスカッションおよびその関連の作業がどの程度役に立ったか



・図1のオンラインパネルディスカッションおよびその関連の作業がどの程度役に立ったかについては、男女とも大半の学生が役に立ったと考えている。女子学生向けに開発されたプログラムであるが、男子学生も十分適用できる内容であったといえる。

図2 オンラインパネルディスカッションおよびその関連の作業について

次の点でどの程度自分にあてはまるか。



・図2のオンラインパネルディスカッションおよびその関連の作業について、次の点でどの程度自分にあてはまるかを聞いた。具体的には、①将来を考えることに前向きになった、②将来に対する不安や焦りが減った、③自分に自信が持てるようになった、④就活に対する不安が減った、⑤女性の生き方や社会構造の変化が分かった、⑥キャリアデザインのための情報や知識が得られた、⑦将来を考える際に目標となる人が見つかった、⑧自身のキャリアデザイン上の課題が明確になった、⑨自分の行きたい方向が分かったの9項目で、本事業の「キャリアデザイン入門B」の事後アンケートを参考にして設定したものである。

「とてもあてはまる」+「ややあてはまる」の合計の割合が高い項目は、①将来を考えることに前向きになった、⑤女性の生き方や社会構造の変化が分かった、⑥キャリアデザインのための情報や知識が得られたの3項目である。これらは本講義の全体の目的でもあり、その目的に対して十分な効果があったと考えられる。特に⑤女性の生き方や社会構造の変化が分かったは、男子学生のほうが「とてもあてはまる」「ややあてはまる」とも女子学生より割合が高く、男子学生にも十分に効果があったといえる。

②将来に対する不安や焦りが減った、③自分に自信が持てるようになった、④就活に対する不安が減った、⑦将来を考える際に目標となる人が見つかった、⑧自身のキャリアデザイン上の課題が明確になった、⑨自分の行きたい方向が分かったは、「あまりあてはまらない」の割合も高い。これらの項目は、自分自身のこととして応用できるかということに関わっており、先に紹介した感想の自由記述では、自分自身のこととして捉えることができたと思われる感想も多いが、アンケートではそう捉えていない学生も多いことがわかる。おそらく、学生自身の授業そのものへの取り組みによる差が出たものと考えられる。

7. プログラムの評価と課題について

・コロナ禍において、最初の 30 分のみ、同時配信オンラインで実施、授業内容はオンラインのオンデマンドで実施したが、学生は多くを学んでいた。

・オンライン授業となったので、①近年のキャリアの変化について動画などをみて学ぶ、②キャリアデザイン入門 B で作成したキャリアモデル 3 名の動画を見る、③動画 3 人のキャリア年表を作る、④キャリアを比較分析する、さらに、2021 年 1 月の緊急事態宣言発出により、大学の感染対策の対策指針や学生からの意見からインタビューの実施を中止し、動画のキャリアモデル 3 名の比較分析をするプログラムに変更した。十分な感染対策を行ってインタビューできる環境にある学生はインタビューしてもよいとしたが、インタビューを実施した学生は 114 名中 1 名に過ぎなかった。

・キャリアモデルの年齢が 20 代後半となり、就職活動や会社選びなども話の内容の大きな部分を占めた。就職活動をひかえた学生たちにとっては、大変参考になる話ではあったが、家族形成を含めたライフコース全般を考えるとという要素がややうすまったかもしれない。

・キャリアモデルの動画は、学生たちは対面でなくても違和感なくみているようで、動画作成をしてよかった。むしろ何度も見返すことができ良かったという指摘があった。また、聖心女子大学で行った質疑応答の動画も学生からは質問できない形であったので、好評であった。

・聞いた話を、年表にまとめる作業については学生からも好評であったが、比較分析レポートについて、特に 1・2 年生は分析という段階まで至っておらず、「比較分析」について、もう少ししっかりと事前に説明すべきであった。その点では 1・2 年生対象の一般教育科目として行う際には、年表の作成を中心とそれを踏まえたまとめのレポートのような簡易な形でのプログラムでも十分な効果があったが、インタビューが実施できればより効果的であったと考えられる。

・女子学生用のプログラムであったが、キャリアモデルが若い人だとジェンダー差がまだ小さく、男子学生にも十分応用できる。また、男子学生にとっては、男女のライフコースの違いの理解を深めるなど効果もあった。

・学生の感想やレポートの出来をみても、明らかに 3・4 年生のほうが学習効果が高い点や、そもそも学生の授業への取り組みの差も大きいので、この点で何らかの工夫する必要があるかもしれない。

講師：跡部千慧（聖心女子大学）

1) 事業の実施状況

コロナの影響による変更点

- ・対面ではなく、Web会議システムZoomを用いての同時配信授業の形式に変更した

◆実施状況：

(1) 講義目的

- ①「働くこと」の意味について主体的に考える。②「職業」のもつ社会的意味について多面的に考える、③これからの「働き方」について自分なりの考えを持ち、表現できる力をつける。

(2) プログラムのポイント（想定される効果）

- ・学生自らが考え意見交換するアクティビティを中心にプログラムを開発する
 - ・初回授業で「事前アンケート」を実施し、学生の学習ニーズや課題、学習経験やレベルを把握する。
 - ・先行研究の学習を通じて、社会の変化を踏まえながら、親世代とは異なる社会情勢を生きていくことを認識する。
- その上で、自らのキャリアを考える
- ・小グループによる対話を通じて、自身の考えや発見、不安や疑問を言語化し、他者に共有する機会を設ける。
 - ・働き方改革の現場で取り入れられているワールドカフェ形式の対話を取り入れることによって、実際に、働くことの一部を疑似体験する

(3) プログラム

回数、テーマ	内容	担当
(1) オリエンテーション	授業の目的・構成説明。LTD 学習法を用いて、先行研究（『まんがでわかる LIFE SHIFT』）を小グループで学ぶ。事前アンケートを実施する。 ※事前学習：『まんがでわかる LIFE SHIFT』を読んてくる	跡部
(2) 未来の職業を考える	授業のテキストだけでなく、事前にインターネット調べてきた内容をもとに、未来の職業について、ワールドカフェ形式の対話を通じて考える。話し合った結果を授業の最後に発表する。 ※事前学習：「10年以内になくなる職業」についてインターネットで調べてくる	跡部
(3) 未来の働き方考える	授業のテキストだけでなく、事前にインターネット調べてきた内容をもとに、未来の働き方について、ワールドカフェ形式の対話を通じて考える。話し合った結果を授業の最後に発表する。 ※事前学習：「人生100年時代」についてインターネットで調べてくる	跡部
(4) 自身の学習成果をふり返り発表する	授業を通して自身が学んだこと、将来に対する希望や目標、これからの大学生活で大事にしたい・挑戦したいこと等について一人一人発表する。事後アンケートを実施する。	跡部

(4) 各回の内容について

*講義の方法

オンライン授業（Web会議システムを用いた同時配信授業）

- 1) 第一回「オリエンテーション」6月18日に同時配信授業を実施
- 2) 第二回「未来の職業を考える」6月25日に同時配信授業を実施
- 3) 第三回「未来の働き方を考える」7月2日に同時配信授業を実施
- 4) 第四回「自身の学習成果をふり返り発表する」7月9日に同時配信授業を実施

*課題について

上記をまとめたものをレポート課題として提出する。

課題：『仕事について考える』A4 4枚以上40字×36行—手書き不可

(5) 実施について

- ・聖心女子大学：日時：2020年6月18日、25日、7月2日、9日、各回100分（10時50分～12時30分）履修者数：70名
- ・立教大学：日時：2020年6月25日、7月1日、各回100分（10時45分～12時25分）、履修者数：19名（検証）

2) 今年度の事業成果の見込み

聖心女子大学と、共学の立教大学において、事業を行うことができた。両方とも、受講生への事後アンケートから、①『LIFE SHIFT』を読むことによって、職業に対するイメージが変わったこと、②グループワークを通じて、意見交換をすることによって、職業イメージが広がっていく様子が明らかになった。

聖心女子大学生の感想

・職業を考えるときに、誰の役に立つかということも着眼点のひとつとして取り入れていきたいと思った。どんな職業につきたいかや誰の役に立ちたいかについて考えているうちに、今日から自分を見つめなおす時間を大事にしようと思った。自分を知らないとどんな職業で活躍できるか、誰の役に立てるのかも見えてこないと感じた。AIではできない、人との関わりの中で生まれるものを大事にできる職業につけたらいいと感じた。

・職業とは、時代と共に変化して行くし、形態も変わっていくということが、明確にイメージされるようになった。

・生きるためにやらなければいけないことというイメージがありましたが、どんな人間になって誰の役に立ちたいかという発想に変えることができました。

・ワールドカフェは、カフェにいるように落ち着いて柔らかい雰囲気の中で会議することというものでした。そうやって仕事を固いものと認識せずに、実は暖かくて楽しめるものでいいんだ。と思いました。AIにとって代わっていく職業がたくさんありますが、AIは感情を持たないので、感情やコミュニケーション能力を育てていきたいです。また、AIはひらめくことも苦手です。だから、発想力や感性も伸ばしていく事で、新しい働き方や職業を自分で切り開いていけるのではないかと考えました。

・自分がただその仕事をやりたいだけでなく、その仕事をすることによって同じ社会で生きる人

達にどう役立つことができるのかまで考えないといけないんだなと感じた・他の人の意見から、企画力、創造力は職につく上で大事なんだなと改めて実感した

・自分のやりたい職業はなんとなく決まっていたが、講義を受けたりグループワークを通して、自分の考えなども深まり、また今からできることについても考えることができて自分の考えが深まった。そして授業を通して、自分がやりたいことだけを考えるのではなくて、自分が絶対にやりたくないことについても考えることによって。違う視点から考えることができると思った。

・本日の講義を受けて、職業とは自分ひとりで探すものではないという事を知りました。お金や生活のために働くイメージが強いですが、少子高齢化などの社会問題を周りの人と協力して支えあうのが重要将来重要になってくるのだなと思いました。

・職業を考えるのは、自分のことを考えることから始まるのかなと思った。自分の興味を深掘して自分だからこそできることを考えたいと思った。

・グループで話し合ってみて、全員が社会の役に立ちたいと思っているという共通点が見つかった。これからの時代の仕事は自分の生活(お金)のために働くという側面だけでなく、自分の社会での役割という側面もあると考えた。

・10年後を考えるのが難しく、1人で考えている時に立ち止まっていたましたが、グループワークを通してそのために今日から頑張りたいこととして今日から将来を考えるために自分を見つめ直す時間にしたという考えになりました。

3) 事業を普及するための方策

(1) 開発したもの

- a.女子大学生対象のキャリア教育プログラム（講義形式で取り入れられるアクティブラーニング）
- b 指導者向け資料：ワールドカフェ形式のプログラムの進め方、対象者別の展開例、LTD 学習法の例
- c 教材：先行研究学習用のワークシート、事前・事後アンケート

(2) 展開例

- ・学校・対象別展開例として、立教大学（すべての性別を受け入れ）の女子学生とそれ以外の性別の学生向けのプログラムを開発した。
- ・聖心女子大学では授業4回で実施したが、立教大学では授業2回の展開例を2020年6月25日と7月1日に実施した。
- ・講義の方法は、オンライン授業（Web会議システムを用いた同時配信授業）である
- ・日時：2020年6月25日、7月1日 各回100分（10時45分～12時25分）
履修者数：19名（女子学生12名）

「人生100年時代の職業を考える」（各回45分×2回）

回数、テーマ	内容
(1)「人生100年時代」について学ぶ	LTD 学習法を用いて、先行研究（『まんがでわかる LIFE SHIFT』）を小グループで学ぶ（6月25日に実施）。
(2) 未来の職業を考える	授業のテキストだけでなく、事前にインターネット調べてきた内容をもとに、未来の職業について、ワールドカフェ形式の対話を通じて考える。

	<p>話し合った結果を授業の最後に発表する。</p> <p>※事後学習...授業を通して自身が学んだこと、将来に対する希望や目標、これからの大学生活で大事にしたい・挑戦したいこと等についてレポートにまとめる（7月1日に実施）。</p>
--	---

立教大学の学生の感想

- ・自分の将来にも関わってくる内容だったので、とても良い機会になりました。
- ・人生 100 年時代においては、自分について知ることが大切だと思ったので、自分はどんな人間なのか、考えていきたいと思いました。
- ・小グループで感想を話し合った際に、他の受講生の感想からどのようなライフスタイルを築きたいか学びました。また、それぞれ目標が異なることに興味が湧きました。
- ・我々のような若年層からすると年長になった際のライフスタイルの事について考えることが少ないと考えます。今日は、ライフスタイルについて人生の早い段階から考えていく事は非常に大切なことだと言うことを知ることができました。
- ・私たちは、科学進歩や長寿化といった多くの恩恵を受けていながら、その恩恵の大きさを顧みず、その恩恵が当たり前であるように感じていることに非常に共感し、このような現状に強く危機感を覚えました。せっかくの大きな恩恵を授かった身なのだから、そのことに感謝し、自分の人生を長いからという理由で無駄にすることなく、自分らしい生き方・時間の使い方を再度考え直していく必要があると強く感じました。このことから私は、自分でもこの教材を読み、課題にも取り組みながら自分の進みたい・進むべき道を考えていきたいと思っています。

キャリア形成の社会学 (授業)

講師：跡部千慧（聖心女子大学）

1. 事業の実施状況

コロナの影響による変更点

- ・授業をZoomによるWeb会議形式に切り替えた。

◆実施状況：

(1) 講義目的

①キャリアとは何かを理解し、②実際にインタビュー調査を実施することによって、女性のキャリア形成のあり方を社会構造の面からとらえた上で、自らのキャリア（ライフストーリー）を主体的に創り上げていく力をつける。

(2) プログラムのポイント

- ・学生自らが考えインタビュー調査をする実習を実施する。
- ・他の授業（キャリアデザイン入門B等）において、言語化した自分自身の考えや発見、将来への不安や疑問を、社会学の学問知に位置づけ、社会構造との連関を見据えて質問項目を作成し、社会人にインタビュー調査する。
- ・インタビュー調査のレポート作成を通じて、インタビュー調査の結果を的確に記述するとともに、現時点の自らのキャリア形成のビジョンを提示する。
- ・初回授業で「事前アンケート」を実施し、学生の学習ニーズや課題、学習経験やレベルを把握する。

(3) プログラム案

回数、テーマ	内容	担当
(1) オリエンテーション	授業の目的・構成説明。LTD 学習法を用いて、インタビュー調査法に関する先行研究を小グループで学ぶ。事前アンケート実施 ※事前学習：インタビュー調査法に関するテキストを読み、ワークシートをまとめる	跡部
(2) インタビューの練習	事前に考えてきた質問項目をもとに、受講生同士でインタビュー調査を実施する。練習を踏まえて質問項目を修正する。 ※事前学習：質問項目を考える	跡部
(3) 事例分析の手法と「人生を切り拓く力」について学ぶ	インタビュー調査結果を報告する。分析方法（ライフストーリー分析）に関する先行研究を小グループで学ぶ。 ※事前学習：インタビュー調査をする。ワークシートに沿って結果をまとめる。分析方法（ライフストーリー分析）に関する先行研究を読み、ワークシートをまとめる	跡部
(4) グループに分かれて事例分析	グループに分かれて、事例分析をする。 ※事前学習：インタビュー調査の分析結果をまとめる。	跡部
(5) グループごとに事例分析の内容を発表1	事例分析内容を発表する。他のグループは、フィードバックシートを記入する。	跡部

	※事前学習：発表準備をする。	
(6) グループごとに事例分析の内容を発表2、ふりかえり	事例分析内容を発表する。 ※事前学習：発表準備をする。発表したグループは、フィードバックシートをもとに、レポート作成を開始する。	跡部

(4) 各回の内容について

*講義の方法

オンライン授業（Web会議システムを用いた同時配信授業）

- 1) 第一回「オリエンテーション」4月23日に同時配信授業を実施
- 2) 第二回「インタビューの練習」5月7日に同時配信授業を実施
- 3) 第三回「事例分析の手法と『人生を切り拓く力』について学ぶ」
6月25日に同時配信授業を実施
- 4) 第四回「グループに分かれて事例分析」
7月2日に同時配信授業を実施
- 5) 第五回「グループごとに事例分析の内容を発表1」
7月9日に同時配信授業を実施
- 6) 第六回「グループごとに事例分析の内容を発表2、ふりかえり」
7月16日に同時配信授業を実施

*課題について

上記をまとめたものをレポート課題として提出する。

課題：「仕事について考える」A4 4枚以上40字×36行一手書き不可

(5) 実施について

- ・聖心女子大学：日時：2020年4月23日、5月14日、6月25日、7月2日、9日、16日
各回100分（13時30分～15時10分）、履修者数：20名
- ・立教大学：日時：2020年5月26日、7月14日 各回100分（8時50分～10時30分）
履修者数：83名（検証）

2) 今年度の事業成果の見込み

聖心女子大学と、共学の立教大学において、事業を行うことができた。両方とも、受講生への事後アンケートから、①インタビュー調査を通じて、話の聴き方や、相手を尊重することを体感を通じて理解したこと、②性別を問わず働き方のイメージが変わったことが明らかになった。

聖心女子大学生の感想

- ・相手の話を理解しようとすることは、自分が話している立場になった時にどれだけ重要なことなのかが分かった。
- ・コミュニケーションといえばキャッチボールというイメージがありましたがたくさんの種類があつて場面によってその形を選択できるということが分かりました。また、今年はオンライン授業でゼミなどで話す場面で初対面の人と顔を見ずに話すということがとても話しにくくて困惑していましたが、話しやすい場は作れるというお話を伺った後

にリフレクションを実践したところ、今までお話ししたことのない方とグループでしたが驚くほどに楽しくお話しすることができたので、場造りや聴く姿勢というのは重要だと身をもって実感しました。リフレクションすることによりいつも以上に相手の話を聞くので理解が深まるし興味が自然と湧くことがわかり、また逆にしてもらえると話しやすいのもっと話したいと思えるのでこれからグループ討議の場だけでなく日頃から実践したいです。

・ディスカッションでは、話す人がメインであると思い込んでいたが聴くことを楽しもう、という言葉が心に残った。話を受け入れてくれるという安心感があるとより色々なことを話しやすいと感じるので自分が聞き手になる際に話し手に安心感を与えることを心がけていきたい。

・今後自分のキャリアを考えるうえでの知識を得て、それを尺度・価値観に落とし込むことができました。特に、人との繋がりやネットワークを培うことが重要だと分かりました。

・今の日本は人口ボーナス期から人口オーナス期に変わり、働けるすべての人が働かないといけない時代だと知った。世の中の女性がどのようなキャリアの中で子育てや仕事をしてきたのかというリアルな姿を学ぶことができた。

3. 事業を普及するための方策

(1) 開発したもの

a. 女子大学生対象のインタビュー調査実習を伴うキャリア教育プログラム

b. 指導者向け資料：プログラムの進め方、対象者別の展開例、キャリア教育で用いる LTD 学習法の例

c. 教材：先行研究学習用のワークシート、質問項目作成用ワークシート、インタビュー調査結果報告用ワークシート、レポートのひな型、授業のふりかえり用ワークシート

(2) 展開例

・学校・対象別展開例として、立教大学（すべての性別を受容）の女子学生とそれ以外の性別の学生に向けたプログラムを開発し、2020年5月26日、7月14日に実施した。

・聖心女子大学では授業4回で実施したが、立教大学では授業2回の展開例を実施した。

・講義の方法は、オンライン授業（Web会議システムを用いた同時配信授業）である

日時：2020年5月26日、7月14日 各回100分（8時50分～10時30分）

履修者数：83名（女性41名，男性26名，男女いずれにも当てはまらない11名，答えたくない5名）

「人生の先輩へのインタビューする」（各回45分×2回）

回数、テーマ	内容
(1) インタビュー調査方法を学ぶ	LTD 学習法を用いて、インタビュー調査法に関する先行研究を小グループで学ぶ。事前に考えてきた質問項目を修正する。 ※事前学習：インタビュー調査法に関するテキストを読み、ワークシートをまとめる。質問項目を考える（5月26日実施）。
(2) インタビュー調査結果を報告し、自身の学習成果をふり返る	インタビュー調査結果を報告する。授業のふりかえりシートをもとに、インタビュー調査を通して自身が学んだことを整理する（7月14日実施）。 授業後、改めて、インタビュー調査結果と自身が学んだことを A4 版 2 枚のレポートにまとめる。

	<p>※事前学習：インタビュー調査をする。ワークシートに沿って結果をまとめる。</p> <p>※事後学習：インタビュー調査結果と自身が学んだことを A4 版 2 枚のレポートにまとめる</p>
--	--

◆立教大学の学生の感想

- ・女性の働き方や男性の働き方のイメージが変わった。
- ・職業選択をするにあたって、ワークライフバランスが取れる会社や、私は男性であるけれども、女性が働きやすいと感じる会社を選択しようと思いました。
- ・女性のキャリア形成について興味を持ちました。自分が知らない生き方や働き方はまだまだたくさんあると思う。それを知るためには、外部からの思ってもみない情報提供が効果的である場合が多いと感じます。
- ・インタビュー調査の基本を学ぶことを目的として受講したが、非常に満足することができた。今回の授業で学んだ調査の方法を、今後目標としている研究職の活動に活かしていきたい。
- ・今回のインタビューを通じて、社会的な問題を俯瞰して見る能力を身につけることができた。
- ・インタビュー調査を通じて、話の聴き方を学ぶことができ、他人を尊重しつつ自分も大切に生きていくということを、体感を通して学ぶことができました。

課外講座：ライフプランニング講座 A

講師：新井浩子（早稲田大学文学部講師（任期付））

1. コロナの影響による変更点

・大学別の対面講座から、聖心女子大学、静岡大学、早稲田大学の合同で Zoom を活用したオンライン・同時配信の講座に変更して実施した。オンラインでの実施に伴い、講座時間を 150 分から 110 分に短縮し、社会構造に関するレクチャーを動画に変更しその視聴を事前課題に加えた。社会人とファシリテーターを 12 名用意しグループワークを実施した。修了証は講師からのメッセージに変更しメールで送信した。広報動画の代わりに、社会人 3 名のキャリアトークおよび学生の感想・質疑部分を録画編集して教材動画を作成した。検証は、各大学の参加者の事後アンケートを比較することとした。

2. 講座目的と対象

・キャリアデザインに関心を持ち始めた 1~3 年生を対象に、社会人の体験談を聞き、人生を長期的に見据え自立した働き方や生き方の方向性をつかむ機会をワークショップ形式で提供する。

・キャリアモデルの生き方から、人生を切り拓く力としての社会や人と関わる力の大切さに気づき、自身の将来展望を具体化する。

3. プログラムのポイント（想定される効果）

・事前学習（レクチャー動画視聴、ワークシート記入）、社会人ゲストのキャリアトーク、社会人と学生のグループワークを組み合わせた双方向型形式で実施する。

・授業とは異なったカジュアルな雰囲気の中で、多様な考えに触れ、自分の気持ちや考えを整理し、キャリアを具体的に考える機会を提供しライフプランを作るための土台づくりをめざす。

・コロナ禍により人間関係が狭められることに鑑み、社会人、大学や学年を超えた学生同士が近い距離で意見交換・交流する機会を提供する。

・上記を通して、その後の大学生活における主体的な学びや活動へつなげることが期待される。

4. プログラム案

ライフプランニング講座 A—社会人の話を聴いて私の未来を切り拓く（110 分）

テーマ（時間）	内容
開会（10 分）	・講座目的、オンラインでの参加方法の説明、ゲスト紹介
キャリアトーク（50 分）	・社会人 3 名のキャリア体験談（15 分×3 名）
グループトーク（30 分）	・ブレイクアウトルームに分かれ、キャリアモデルの体験談を聴き意見交換する（1 グループ：社会人 1 名、ファシリテーター 1 名、学生 3~4 名）
全体シェア・まとめ（15 分）	・グループトークの内容・感想を 2 名ぐらいに話してもらう ・グラフィックレコードを見ながら振り返り、まとめのコメントをする
閉会（5 分）	・事後アンケート等について説明（終了）

※事前学習を課す

※デジタルグラレコ(グラフィックレコード)を活用して講座内容をまとめ、まとめで活用する

5. 実施と検証について

◆実施について

- ・2020年12月2日(水)17:10~19:00 Zoomで実施
- ・参加者53名(聖心女子大学35名、静岡大学11名、早稲田大学7名)
- ・社会人ゲスト12名(聖心女子大卒5名、静岡大卒2名、早稲田大卒3名、その他大卒2名。女10名、男2名)
- ・ファシリテーター12名(日本女性学習財団3名、聖心女子大生4名、静岡大3名、早稲田大生2名。女10名、男2名)
- ・事前学習:①キャリアデザインとジェンダー(M字型就労、男女の賃金格差など)について解説したレクチャー動画(日本女性学習財団「発見!ジェンダー」パネルを使用、YouTubeで限定公開)視聴 ②社会人ゲストのプロフィールと参加者へのメッセージを掲載した資料を読む ③ワークシート「これからの私を考えてみよう」を記入し、将来に対する自身の現状(興味や不安、希望等)を整理する。
- ・実施後:①Googleフォームで作成した事後アンケートを記入(ふり返しシートを兼ねる) ②日本女性学習財団『Welearn』6月号、講師からのメッセージを送信

◆各大学それぞれの特徴をふまえた強調点等について

- ・昨年度成果をふまえ、「失敗することを怖がる」「自信がない」「意見が言いにくい」「親の影響が強い」を変えるきっかけを提供するため、①女性の就業や性別役割分業の実態と課題をデータ等で紹介、②学生に近い存在である20代を中心に多様な職種・業界のキャリアモデル男女を選定し、人生を切り拓いた(転機や挫折を乗り越えた)経験を話してもらい、③グループ毎にファシリテーターを配置し全ての学生が発言できるよう支援した。
- ・静岡大学(①共学の国立総合大学であり理系学生がいる、②7割が静岡で就職、③文系理系でキャンパスが分かれており交流が少ない)、早稲田大学(①共学の総合大学であり、②男子学生向けのキャリアデザインの授業がない)という大学の特徴に留意し、プログラム構成と学習支援方法は継続しつつ、①男性にとっての性別役割分業の問題やキャリアデザインの必要性を強調。②大学・地域・年齢等が学生と近いキャリアモデルを選定。③学部学年性別など混合したグループを編成し、ファシリテーターを配置した。

◆キャリアモデル

- ・広告会社勤務(聖心女子大学卒、20代女性)
- ・IT会社勤務(静岡大学卒、20代男性、既婚、転職経験あり)
- ・IT会社勤務(早稲田大学卒、20代女性、転職経験あり)

◆キャリアトークについて

- ・ライフラインチャートを示しながら大学から現在までのキャリアヒストリーを以下の順に話していただいた。a. 大学時代に関心があったこと、やっていたこと b. 現在の仕事について理由、経緯 c. 仕事の内容、おもしろさ・大変さ d. その時々、自分のやりたい方向にどうやって状況をもっていったか
- ・社会人ゲストには、「切り拓く力」=なりたい自分になれるように状況をきりひらいていく力、を学生に提示すると言う目的を共有した。具体的には、多くの学生が「失敗したくない。そのためにはどうしたらいいか知りたい」と言うが、失敗のない人生はなく、失敗が実はチャンスだったということもあるので、自分のやりたい方向に自分の状況をもっていかを考えることが重要ではないかという我々の問題意識を伝えた。その上で、何らかの障害に直面しても自分の持っている資源をもちいて自分の行きたい方向にもっていった経験(人生最大のピンチ、つらかった時期、今考えると人生の転機など)の具体的なエピソードを話していただくよう依頼した。あわせて、以下の点についても考慮してもらうよう依頼した。

- ・「仕事を選んだ理由、仕事から得ていること、努力していること、大変だったこと、どうやってそれを乗り越えたか」。「大学で学んだことがどのように生きているか」（仕事上であったり、自分の人生においてであったり）など。

◆グループトークの進め方について

以下の流れで実施した。

- ・ファシリテーター挨拶（氏名・大学等一言自己紹介含む）→社会人ゲスト挨拶（氏名・大学・所属等一言自己紹介含む）→学生が順番に①自己紹介（氏名・大学等、受講動機、今日の講座に期待することなど）②キャリアトークを聴いての感想・意見・質問などを話す →社会人ゲストから自己紹介とキャリアトーク・学生の発言を受けてやや詳しく話していただく（5分程度、PPT画面共有）→グループごとに話を深める・広げる→最後に1人一言ずつ感想等を言って終了
- ・まとめたり、結論を出したりする必要はない、キャリアトークをきっかけにしごとやライフデザインについて思いを自由に話す機会にするという目的を共有した。

◆ファシリテーターの役割、依頼内容

- ・グループトークの進行役、話しやすいきっかけ作りや声かけ。特にオンラインでは話しはじめが難しいので、「こんにちは!」「皆さんカメラオンをお願いします」「自己紹介は、私からします」「〇〇さんはどうですか?」など、話をふったり、あいづちを打ったりすることを心がけてもらった。
- ・「学生の質問に社会人が答える」だけではなく、学生同士のやりとり（他の学生の発言への感想、自分の場合は・・・）などもしたい。学生の気持ちは学生であるファシリテーターがよくわかるので、自身に置き換えて自由にやってみてもらおうこと。参加者全員が必ず一回以上発言し、「今日は話せた」と思って終了できることを目指してもらった。

◆社会人ゲストの役割、依頼内容

- ・学生からの質問や感想に対する率直な意見や自身の経験を話していただけたらありがたい。
- ・短時間でキャリアを理解できるように、①簡単な経歴 ②参加者へのメッセージ ③自己紹介用PPT1枚を作成し、画面共有しながら話をしてもらった。さらにキャリアトークの3名には、④学生時代以降のライフラインチャート等の資料を作成し画面共有しながら話をしてもらった。

6. プログラムの評価と課題について

- ・聖心女子大学と、共学の静岡大学、早稲田大学合同でZoomを活用したオンライン講座として実施した。全体で社会人3名（各大学卒業生）の話を聴いた後、ブレイクアウトルームに分かれ新たな社会人の話を聴き、ディスカッションした。ゲスト社会人は20～30代、各大学卒業生を中心に男女あわせて12名である。ブレイクアウトルームでは、日本女性学習財団スタッフ3名、昨年度講座やキャリアデザイン入門B等を受講した学生9名がファシリテーター役を務めた。
- ・当初は、性別を考慮したプログラムを開発する予定であったが、合同で実施した結果、その必要はないことが明らかになった。事後アンケートでは、社会人とのグループワークに対して「社会人の方の経験を生で聞ける」「実際に質問することができた」と双方向のやりとりができた点が評価され、「選択肢は無限だと思った」「悩みがあるのは普通なんだ、それは成長への足踏みのようなもの」「自分の信じたことをしていこうかなと思うようになった」など将来に対して前向きになった様子が見え、「時間が短く感じた」「もっと社会人と話したかった」「もっと話し合いの時間

を長くしてほしい」などの意見も多数に及んだ。また、「事前課題をしてから臨んだことで、自分の今の状況や心境と照らし合わせながら聞くことができた」「ファシリテーターが、参加者の意見を踏まえつつ関連した質問を社会人にしてくれるなどとてもありがたかった」など、学習支援により学習効果が高まったことが明らかになった。また、ファシリテーターを担った学生からは自身の成長を実感したという声が寄せられ、挑戦することの意義や効果を実感できたことも明らかになった。

・複数大学合同による講座に対しては予想以上に好評で、実施もスムーズだった。性別や大学による差はあまりなかったが、聖心女子大学の学生からは、以下のような感想があり、効果が高かったことがうかがえる。

「小学校から大学までずっと聖心に通っていて、聖心以外の方のお話を伺う機会がなかったので、他の大学でどのような学生生活を送り、どのようなことに悩んだのか、といったお話を伺うのはとても新鮮でした。具体的には、聖心だと一人の女性としてどう生きていくか、というお話を聞く機会が多く、自分自身が女性であることへの意識が強くなるのですが、共学の学校の方のお話はそういう要素がなく、良い意味で自分自身が女性であることを忘れてお話を聞いているように感じました。」

・静岡大学・早稲田大学生の感想を見ても、ニーズや評価することは共通しており、本プログラムは多くの大学に活用可能であると考えられる。

・課題としては、①オンラインでのディスカッション方法—Zoom では他のブレイクアウトルームの様子がわからない、メンバーチェンジが難しいといった制約がある。グループワークのしやすいアプリの調査なども課題である。②キャリアモデル、ファシリテーターの確保—グループ数に応じた卒業生ゲストやファシリテーターを確保するのは簡単ではなく、打ち合わせの手間もかかる。ハードルを下げする方法を検討する必要がある。

・オンラインでのディスカッションは難しい点がある。ファシリテーターがいること、その機能は好評だったが、オンラインの授業で確保するのは難しい。

・ファシリテーターへの説明会を実施し、事前説明を行ったことはよかった。昨年講座に参加した学生がファシリテーターを行ったが、このようなことが定着して良い循環が生まれるとよい。

7. 開発するもの

a. キャリアデザインプログラム

b. 指導者向け資料：プログラムの進め方、ゲストトークの進め方

c. 教材：レクチャー動画、事前課題シート、ふり返りシート・事後アンケート

d. 普及ツール：社会人3名のキャリアトークおよび学生の感想・質疑部分を録画編集した教材動画

1. 変更点

・聖心女子大学では、対面の講座から Zoom オンライン・同時配信の講座での実施となった。検証を実施する静岡大学においても同様に、Zoom オンライン・同時配信の講座での実施を決定した。

2. 講座目的

将来の仕事や職場の人間関係、仕事と育児の両立といった不安から、キャリアの展望が開きにくい学生に対し、不安を解消するだけでなく、固定的な考えにとらわれず前向きにキャリアを考える機会を提供する。働く場面がリアルにイメージできる実体験、社会人に求められるスキルに関する情報を得た上で、「今からできること」を自ら考え、大学生活での主体的なアクションにつなげる。参加者（2、3年生対象）には、今後の授業への入り口になるポイントを伝え、授業との連携を図り、関心が高まる就活は、テーマと関連させたアドバイスを加える。

3. プログラムのポイント（想定される効果）

- ・聖心女子大学では、昼休みを活用して実施、通常授業と離れた場で、他者の多様な考えに触れながらキャリアを考える機会とする。
- ・Zoom を活用し、講師によるレクチャーと学生同士のミニワークや事前課題のシェア等を組み合わせた双方向型形式で実施する。
- ・自ら学ぶ姿勢でのぞめるよう、事前にテーマについて課題に取り組み、事後には講座を聞いて得た学びと今後のアクションについてアウトプットするフローで推進する。
- ・講座を通じて、実際の情報を得ることで漠然とした不安が軽減される、あるいは、自らつくっている壁（制限）をこわすことでチャレンジ精神が芽生える、というメッセージを送り、今後の主体的行動を促進する。

4. プログラム案

ライフプランニング講座 B－「仕事の現場」からキャリアを考える（各回 40 分×4 回）

回数、テーマ	内容
(1) もう失敗なんかこわくない	講座のねらい案内、自分にとって「失敗」とは何か？ 講師の失敗経験、失敗の捉え方、偉人の失敗から何を感じたか？ 失敗した場合の対応として経験学習サイクルの紹介と就活での活用方法の紹介。事後ワークとして「経験学習サイクルシート」を配布
(2) 自分の力で、自信をアップ	自信が持てない理由とは？ 自信をアップするために必要な「一歩踏み出すストレッチ」、仕事上で自信を得た講師の経験紹介、2020年に達成したいチャレンジ目標と具体的なアクションを考える。企業がチャレンジする人材を求める理由とは？ レジリエンスとは？ 事後ワークとして「チャレンジ目標プランニングシート」を配布
(3) 意見が言えるワタシになる	聖心大生の良いところ、悪いところを話し合う。仕事で「意見をいう場面」とは？ 意見を伝える大切と伝える方法（I メッセージ、You メッセージ、言いにくいことを伝える方法）、コミュニケーションの基本、聴くから始める、就活で意見が求められる場面とは？ まずは授業でトライしよう！
(4) カベを壊して、可能性を	自身の偏見をチェックし、周囲と共有する、アンコンシャスバイアスとは？ 講師の

広げよう	思い込みがなくなった経験、カベを取り除く方法、キャリアと外的環境、VUCAとは？ AI・ロボットの普及による職業の変化予測、未来のビジョンに近づくために
------	--

※毎回、デジタルグラレコ（グラフィックレコード）を活用して講座内容をまとめ、次回振り返りを行う予定。

◆聖心女子大学実施講座と静岡大学実施講座それぞれの特徴、強調点について

- ・ 昨年の実施をふまえ、事前課題の充実と学生同士の意見交換を充実させた（Zoomで実施）。
- ・ 聖心女子大学：キャリアセンター等から学生の傾向として指摘された「失敗することを怖がる」「自信がない」「意見が言いにくい」「世の中の動きを知らない、視野が狭い」を変えるきっかけを提供することを目標とした。すぐに解決策を提示するのではなく、なぜ自信が持てないのか、なぜ意見が言えないのか、それぞれ自分ごととして理由を考えるとところからスタートした。特に女子大生に起こりがちな職種や仕事内容を選択する際の思い込みを取り上げるなど、学生に関心が高い就活に触れながら伝達した。
- ・ 静岡大学：学生の傾向については、聖心女子大学の学生と同様であることを受け、4つのテーマ・内容ともに変更せず、特に共学の国立総合大学であり対象が女性に限定されない、理系学生がいるという点に留意しながら実施する。
- ・ 聖心女子大学では各回40分×4回をランチタイムに実施した。静岡大学では、各回80分×2回を課外講座として実施する。

5. 実施と検証について

◆実施について

- ・ 聖心女子大学は、以下の日時にて、Zoomでオンライン・同時配信で実施。
 2020年11月4日（水）12：40～13：20 参加者86名 ステップ1実施
 2020年11月11日（水）12：40～13：20 参加者78名 ステップ2実施
 2020年11月18日（金）12：40～13：20 参加者67名 ステップ3実施
 2020年11月25日（金）12：40～13：20 参加者61名 ステップ4実施
- ・ 参加者の感想：「グループディスカッションでお互いの意見を共有できたことが良かった。」「多様な価値観を吸収し、自ら考えて行動していきたいと思った。」「失敗とチャレンジを繰り返しながら、ステップアップしていきたいと思った。」など。
- ・ 実施結果：学生は春からのオンライン授業を通じてZoomでのグループディスカッションにも慣れており、短い時間のブレイクアウトではあったが、事前課題に基づいてスムーズに意見交換できていた。各ディスカッション後に数名に発表をしてもらったり、デジタルグラレコで授業のまとめをシェアすることにより、双方向性な講義が実現できた。

- ・ 静岡大学は、以下の日時にて、Zoomでオンライン・同時配信で実施。
 2021年2月16日（火）15：00～16：30（途中休憩あり） ステップ1・2実施 参加者20名
 2021年2月22日（月）15：00～16：00（途中休憩あり） ステップ3・4実施

6. プログラムの評価と課題について

(1) 聖心女子大学での実施について

- ・ Zoomを活用したオンライン講座として実施した。学生はオンラインでの参加に慣れており、たいへんスムーズに実施できた。
- ・ 各ステップ40分のオンライン講座のなかで、各回2回、約3分で事前課題についての意見交換を行うグループワ

ーク（ブレイクアウトセッション）を行ったところ、受講生への事後アンケートから、「他の人の意見を聞けて、自分だけが悩んでいるわけではないことがわかった」「多様な考えがあることがわかり視野が広がった」「交流ができて嬉しかった」など多数のコメントが得られた。コロナ禍で学生同士の交流が少ないことも影響したと考えられるが、同じテーマで意見を交わす機会の重要性が明らかになった。3人ずつという少数人数で実施したことも、話しやすかったと好評であった。

・聖心女子大学における学生のキャリア課題を各回のテーマとしたが、各回とも課題について自ら考え、今後の主体的行動につながる機会を提供できたと考える。「失敗を怖れるのではなく失敗から学ぶことが大切だ」「自ら目標を立ててチャレンジしようという気持ちになった」といった事後アンケートのコメントから、当初ねらいとしたメッセージがストレートに伝わり、固定観念の解消や行動変容のきっかけにつながったと考える。

・聖心女子大学での参加者は、主に2年生、3年生であり、学年が違っていると話しにくいという声が当初一部に挙がったが、このような課外プログラムの実施を通じて学年間の交流ができ、ネットワークを広げる良い機会となった。

・今回はデジタルグラレコという形で、学生の発表コメントも記録されたライブ感のある成果物となり、まとめや振り返りに役立った。

・今後の発展形としては、ライフプランニングにおける不安や課題解消に加え、広く社会課題を考えることも人生を切り拓く前向きなテーマになると考える。

（2）静岡大学での検証について

・2021年2月16日と22日に検証を実施した。4回のステップを2日に分け、間に5分のリフレッシュ休憩をはさんでZoomで実施した。

・昨年は対面で、今年はオンラインで実施し、比較もできてよかったと考える。大学全体で対面授業が実施されていないなか、学生に講座の内容を伝えたり、チラシを配布するなどがやや難しかった。大学のオンラインシステムを通して複数回アナウンスした。

・最終的に申込者34名、参加者は1回目20人、2回目18名であった。オンラインなので気軽にキャンセルしてしまったのか、申込～実施まで期間があったので忘れてしまったのか検証する必要はある。

・参加者に留学生や大学院生も比較的多く、院生でも十分参加して考えることができるプログラムと考える。また、留学生が非常に積極的に発言するので、日本人学生もそれに引っ張ってもらい話す傾向があった。

・グループワークは好評であった。カメラONにして、顔を出しての発言することが大事であった。女子学生より男子学生の方が積極的に参加しており、男子学生が考えるのにも非常に重要なプログラムと考えられる。

・参加者は、1年生から大学院生の各学年、留学生、学部やキャンパス（静岡・浜松）も幅広く、と、多様なバックグラウンドの学生の交流の場になった。1年生はオンライン授業に慣れており、まったく臆せず意見を述べたり、発表したりしていた。また就活を終えた4年生や就活中の3年生の話も参考になったようで、縦横の広い関係づくりができたことが良かった。

・内容は聖心女子大学と同様で行ったが、アンケート内容からも「失敗から学ぶことの大切さがわかった」「挑戦の目標は具体的でなければならない」など、当初のねらいがしっかりと伝わっており、聖心女子大学の学生の課題は、男子学生にも当てはまることが検証できたと考える。

・聖心女子大学同様、グループワークは好評で、「自分自身で考える機会になった」「いろいろな考えが聞けた」などコメントが多数であった。中には、「もっとゆっくりと話したかった」というコメントも見られたが、オンラインで、かつ比較的短時間でのグループワークでも、参加型の講義が実現できたことは良かった。

・昨年は対面で行ったため、浜松キャンパスの学生が中心となったが、本年度はオンラインの実施によって、両キャンパスから参加できる点もオンライン実施の利点であったといえる。

「女性が働き続ける」内容について、男子学生に伝えるような内容が含まれていてもよいのでは

(3) 全体として

- ・ジェンダーには今回あまりふれなかったが、今後、ジェンダーや社会課題についても入れられれば、視野が広がり、自分のキャリアとつながっていくと考える。
- ・静岡大学の方が、機会に対するニーズが高かった。男性における、ジェンダーを考える機会が必要ではないか。企業の仕事・育児両立セミナーの実施状況をみると、参加者は女性が多く、上司の「男性は仕事を」という期待も高い状況がある。世の中を変えていくには、男性の意識を変えることが必要であり、今後の広がりとして、男性の学生に、女性のキャリアや性的役割分業を伝える機会があってもよいのではないか。

7. グループワークについて

- ◆3名1グループで各回5分×2回実施。グループはzoom ランダムで自動振分け。講師から指名方式で学生をあて、意見を共有する。
- ◆各回、事前課題をもとに実施。
 - ・グループワーク回数：2回
 - ・グループワーク時間：学生へのアナウンス3分、実際時間6分
 - ・グループワーク後シェア：3人ほど、発表者は講師が指名。
 - ・Zoom 画面での氏名・学年の表記法：申し込みフォームに記載し、当日開始時も、スライド1枚にまとめたも（キャリアセンター作成）を提示。
 - ・ビデオマイク：講義時 OFF,グループワーク ON←同上
 - ・デジタルグラレコ：最後のまとめと次回の冒頭にてシェア

8. 資料：各回講座後、①配付用資料データ、②デジタルグラレコを Torch に掲載する

- キャリアセンターが担当し、①②ともダウンロード可にする。

9. 事前課題

- ・昨年度と同じ Torch に掲載しておく（データ入力もできるよう、Word 等）
- ・印刷して事前に取り組み、手元に置いて参加するよう、申し込み時にアナウンス（キャリアセンター）。

10. アンケート等

- ◆事前アンケートは申し込み時に回答するよう設定する。
- ◆事後アンケートと各回振り返りシートは Google フォーム内で繋げて1本化し、期限は講座日の翌日中とする。
 - ・全て Google フォームで作成（入力コピーがメールに返信される。結果スプレッドシートで共有化）
 - ・前回のふり返りはグラレコで実施。
 - ・飲食について：昼休み開催のため、飲食可とする（グループディスカッション時は不可）。チラシの表現を工夫する。ディスカッションのタイミング等、目安を案内する。←アジェンダに追加（担当講師）

11. 各回の司会進行

- ・今年度は時間がタイトなので司会はなし。事務連絡事項（例：レコーディングあり、公式 HP に掲載する等はスライドにして講座前から表示しておき、担当講師から冒頭でお伝え頂く。※初回冒頭と最終回は、担当教員がひと言はなす。

・スタッフ紹介：ビデオオンで全員一斉に登場。Zoom 上、所属・氏名を表示。

12. 修了証

・オンライン開催のため、代わりの特典を用意。全4回出席し、アンケート・振り返りシートを全て提出した学生が対象。

・発展的学習にもなる We learn (PDF) 最新号+講師からのメッセージをメールで配信。(BBC で一斉送信)。その旨、案内チラシに明記し動員へ。

13. 開発するもの

- a. 仕事と生き方を考える課外講座プログラム（女子大の女子学生/共学の男女学生支援用）
- b. 指導者向け資料：講義内容、講座の進め方のでびき、対象者・実施回数別展開例
- c. 教材：事前課題シート、ワークシート、振り返りシート、事前・事後アンケート
- d. 普及ツール：授業紹介動画

14. 展開例

40分×2回の講座として実施する展開例を示す。

学校・対象別展開例として、女子大の女子、共学男女支援用の2タイプを開発する。

Ⅱ. 今年度の事業成果と課題

(1) 各プログラムについて

①キャリアデザイン入門 B (聖心女子大学 47 名、大東文化大学 299 名、早稲田大学 38 名履修)

・聖心女子大学ではオンデマンドと同時配信、大東文化大学、早稲田大学ではオンデマンドで実施した。ワークシート記入など個人学習、講義の組み合わせは、オンラインでも効果的であり学生にも歓迎された。スマートフォン等でも入力可能な Google フォームを使用したワークシートも好評であった。聖心女子大学では、Zoom でのグループディスカッションを実施し大変好評であった。

・社会人がキャリアに関する体験を語るシンポジウムは、同時配信・オンデマンドともに好評で事後アンケート等の記述からも効果的であった。

・当初、女子大学用、男女共学用のプログラムを作成する予定であったが、大東文化大学での検証の結果、別プログラムを作成する必要は必ずしもないことがわかった。男女とも、家事や育児の実態を知ったことが評価されており、WLB や育児などを含むジェンダー視点に立ったプログラムの有効性が感じられた。ただし、受講後の自信向上、将来への不安解消といった項目は女子が低く、受講動機として将来を考えたい女子が多いなど、女子学生のエンパワーメントを目的とするプログラムが不要とは判断できない。さらに、意識や就業継続に関する実態調査などを行った上で、具体的に検討する必要があると考えられる。

② 職業社会学 1 (聖心女子大学 97 名、千葉商科大学 114 名) :

・聖心女子大学での実施は、コロナ禍において、最初の 10 分のみ、同時配信オンラインで実施、授業内容はオンラインのオンデマンドで実施したが、学生は多くを学んでいた。2019 年度は、①管理職の女性 1 名、管理職女性と同じ部署の入社 3 年目の女性 (卒業生)、30 代前半の働いている女性 (卒業生) に授業にきてもらい、仕事やキャリアについて話してもらい、を授業の 2 回分で実施、②自分で働いている人にインタビューを行う、③キャリアを比較分析する、としたが、2020 年度は、オンライン授業となったので、①ロールモデルの資料を読む、②キャリアデザイン入門 B で作成したキャリアモデル 3 名の動画を見る、③自分で働いている人にインタビューを行う、④キャリアを比較分析する、というプログラムにした。

・昨年度と比べて、キャリアモデルの年齢が 20 代後半となり、就職活動や会社選びなども話の内容の大きな部分を占めた。就職活動をひかえた学生たちにとっては、大変参考になる話ではあったが、生き方を考えるという要素がややうすまったかもしれない。

・キャリアモデルの動画は、学生たちは対面でなくても違和感なくみているようで、動画作成をしてよかった。

・今年度は、初回に「ロールモデルをもとう」として、ロールモデルについて書かれた文献を読んだことで、学生たちにとっては、大変参考になったようである。

・女子学生用のプログラムであったが、キャリアモデルが若い人だとジェンダー差がまだ小さく、男子学生にも十分応用できる。また、男子学生にとっては、男女のライフコースの違いの理解を深めるなど効果もあった。

・学生の感想やレポートの出来をみても、明らかに 3・4 年生のほうが学習効果が高い点や、そもそも学生の授業への取り組みの差も大きいので、この点で何らかの工夫する必要があるかもしれない。

③ 職業社会学 2 (聖心女子大学 70 名、立教大学 19 名履修) :

・聖心女子大学と、共学の立教大学において、事業を行うことができた。

・両方とも、受講生への事後アンケートから、①『LIFE SHIFT』を読むことによって、職業に対するイメージが変わったこと、②グループワークを通じて、意見交換をすることによって、職業イメージが広がっ

ていく様子が明らかになった。

④**キャリア形成の社会学**（聖心女子大学20名、立教大学83名履修）：

- ・聖心女子大学と、共学の立教大学において、事業を行うことができた。
- ・両方とも、受講生への事後アンケートから、①インタビュー調査を通じて、話の聴き方や、相手を尊重することを、体感を通じて理解したこと、②性別を問わず働き方のイメージが変わったことが明らかになった。

④ **ライフプランニング講座 A**（聖心女子大学・静岡大学・早稲田大学合同で2020年12月2日実施）：

- ・聖心女子大学と、共学の静岡大学、早稲田大学合同でZoomを活用したオンライン講座として実施した。全体で社会人3名（各大学卒業生）の話を聴いた後、ブレイクアウトルームに分かれ新たな社会人の話を聴き、ディスカッションした。ゲスト社会人は20～30代、各大学卒業生を中心に男女あわせて12名である。ブレイクアウトルームでは、日本女性学習財団スタッフ3名、昨年度講座やキャリアデザイン入門B等を受講した学生9名が一役を務めた。
- ・事後アンケートでは、社会人とのグループワークに対して「社会人の方の経験を生で聞ける」「実際に質問することができた」と双方向のやりとりができた点が評価され、「選択肢は無限だと思った」「悩みがあるのは普通なんだ、それは成長への足踏みのようなもの」「自分の信じたことをしていこうかなと思うようになった」など将来に対して前向きになった様子がうかがえた。また、「事前課題をしてから臨んだことで、自分の今の状況や心境と照らし合わせながら聞くことができた」「ファシリテーターが、参加者の意見を踏まえつつ関連した質問を社会人にしてくれるなどとてもありがたかった」など、学習支援により学習効果が高まったことが明らかになった。
- ・複数大学合同による講座が予想以上に好評であることが明らかになった。また、ファシリテーターを担った学生からは自身の成長を実感したという声が寄せられ、挑戦することの意義や効果を実感できたことも明らかになった。

⑥**ライフプランニング講座 B**（聖心女子大学で2020年11月4日、11日、18日、25日で実施、静岡大学で2021年2月16日と22日に実施予定）：

- ・聖心女子大学と、共学の静岡大学において、Zoomを活用したオンライン講座として実施した。学生はオンラインでの参加に慣れており、たいへんスムーズに実施できた。
- ・各ステップ40分のオンライン講座のなかで、各回2回のグループワーク（ブレイクアウトセッション）を行ったところ、受講生への事後アンケートから、「他の人の意見を聞いて、自分だけが悩んでいるわけではないことがわかった」「多様な考えがあることがわかり視野が広がった、交流ができて嬉しかった」など多数のコメントが得られた。コロナ禍で学生同士の交流が少ないことも影響したと考えられるが、同じテーマで意見を交わす機会の重要性が明らかになった。
- ・聖心女子大学における学生のキャリア課題を各回のテーマとしたが、各回とも課題について自ら考え、今後の主体的行動につながる機会を提供できたと考える。事後アンケートのコメントから、当初ねらいとしたメッセージがストレートに伝わり、固定観念の解消や行動変容のきっかけにつながったと考える。
- ・聖心女子大学の参加者は、主に2年生、3年生であり、学年が違っていると話しにくいという声が当初一部にあったが、このような課外プログラムの実施を通じて学年間の交流ができ、ネットワークを広げる良い機会となった。
- ・静岡大学での実施は、去年は対面で行ったため、浜松キャンパスの学生が中心となったが、本年度はオンラインの実施によって、両キャンパスから参加できる点もオンライン実施の利点であったといえる。
- ・静岡大学の参加者は、1年生から大学院生の各学年、留学生、学部やキャンパス（静岡・浜松）も幅広く、と、多様なバックグラウンドの学生の交流の場になった。縦横の広い関係づくりができたことが良かった。

- ・静岡大学の内容は聖心女子大学と同様で行ったが、アンケート内容からも、当初のねらいがしっかりと伝わっており、聖心女子大学の学生の課題は、男子学生にも当てはまる事が検証できたと考える。
- ・今回はデジタルグラレコという形で、学生の発表コメントも記録されたライブ感のある成果物となり、まとめや振り返りに役立った。
- ・今後の発展形としては、ライフプランニングにおける不安や課題解消に加え、広く社会課題を考えることも人生を切り拓く前向きなテーマになると考える。

(2) 成果と課題の検討について (外部評価について)

2021年3月11日に実行委員会を開催し、2年間の事業の成果と課題を総括した。その際、外部の有識者2名(大学教員1名、女性関連施設職員1名)から事業評価をいただき、多角的に事業を検証する機会とした。外部評価委員による指摘は以下である。

◆加藤千恵先生(京都光華女子大学副学長、女性キャリア開発研究センター長、京都市男女共同参画センターウイングス京都館長)

- ・「キャリアデザイン入門B」について：
20代3名のキャリアモデルは共感できる相手に出会える、20～40代のキャリアモデルはキャリアの変遷がわかり、構成としておもしろい。動画では、ずっと同じスライドが表示されているので、話題にしている箇所の色を変える等変化があるとよいのではないかな。
- ・「職業社会学1」について：
「共学向けのプログラムは必要ないのではないかな」という意見を聞いて、男子学生の意識が変わってきたことを実感した。一方で、男性が育休をとりにくい 日本での **イ** **エ** 意識等、男子学生が社会で出会う困難を伝えるプログラムも必要があるのではないかな、継続して考える必要があると考える。
- ・「ライフプランニング講座A」について：
ライフラインチャートが非常にわかりやすい。作成した本人にとっても一つの気づきになったと考えられる。
- ・「ライフプランニング講座B」について：
動画が、非常にわかりやすい。Step1の内容はとても具体的である。Step2のコンフォートゾーンから、ストレッチゾーンへの移行の内容等をもっと具体的にするためには、講座Aのキャリアモデルに再度インタビューして実例とつなぎ合わせていけば、講座間の連携をとることができて面白いのではないかな。
- ・作成した動画について：
タイマー表示がおもしろい、手書きのイラストにあたたかみがある。音楽つきでまとめのシートが提示され、クールダウン効果があり、学びが可視化されている。とても良いエンディングで勉強になった。
- ・京都光華女子大学の取り組みについて：
1年生の前期に開講の「女性の生き方・働き方」という授業を担当している。職業をもった6人の卒業生に1回に一人ずつ話をしてもらっている。20代→30代→40代→50代と年齢をあげて話をきいている。これによって、年代による変化を学生に示すことができる。
学生の意識の変化をみるために、1回目の授業で「卒業後/5年後/10年後/20年後・・・」こうなっていたというシートを書いてもらう。自分の母親や知人のことをイメージして書く学生が多い。30代で子育てをしているとか、あまり具体性がない。しかし授業の最後に同じシートを書いてもらうと、学生の書く内容は非常に変わる。文字量が増え、具体的になる。「30代で〇〇万稼げるようになりたい」「部下をもって・・・」などである。
学生に、授業終了後に第一回目と最終回のシートを渡すようにしている。これは、時間が経つと学生の意識が元に戻ってしまうため(初期化)、フィードバックをすることで、それを食い止めたいと考えるからである。今年度は、オンライン授業になり、初回提出シートをオンライン上で確認できるため、初回と最終回シートを変更して実施した。
- ・質問) 本事業においてプログラムの効果を可視化する方法はあるかな?

例えば、京都光華女子大学では、全学学生の入学時・卒業時の就業意識調査をしている。本プログラムでも、卒業時に、プログラムを受けた学生が変化はあるか、その後社会人人生に影響があるかなど調べても良いのかもしれない。

- ・今後のコンテンツ配信であるが、なるべく年度をまたぎ、配信してほしい。

◆谷口年江様（静岡市女性会館、指定管理者 NPO 法人男女共同参画フォーラムしずおか）

- ・社会教育施設の役割もある施設という立場、相談事業を請け負っている立場からみると昨今以下のような状況がある。

コロナ禍において、対面からオンライン講座へと変更がなされている。当日キャンセルも非常に多く、予定していたグループ分けがうまくいかなかったことなどが生じている。

- ・宿題が提示できることは大学ならではの学びと思った。
- ・本事業は学生の「切り拓く力」を養おうとしているが、インターン生と接して、自信を持たない、社会に出ることを必要以上に恐れている様子を感じるので、大学生にとって必要な事業ではないか。
- ・近隣の私立高校にキャリアに関する出張講座を行っている。自分の人生を主体的に選択できるようになってほしいという目的である。学校教育の中で、ライフプランニング教育に出会わない人も多い。社会人になって参加するのはごく限られた人。学校でのキャリア教育はとても重要である。
- ・相談事業の視点からみると、センターでは、就職・転職・キャリア相談を実施しているが、キャリア教育とジェンダーは切り離すことができないと考えている。転職の相談では自己分析が乏しく、自信がない。自分の能力を認識できていない状況、育休復帰の両立不安の相談では、自分で何でも引き受けなくてはいけないという意識。夫婦での話し合いも乏しい状況、女性の総合相談 性的役割分業への疲弊。経済的に自立ができず解決に動くことができない状況が相談から浮かび上がっている。
- ・大学における課外講座のプログラムは、キャリア教育に全く出会わない人に出会うチャンスであり、学部専攻を問わず開かれた講座が必要である。
- ・プログラムの構成をみると、プログラム単独でも有効に学習できるのはとてもよい。一方で授業や課外講座連動させるとしたらどんなつながりが必要か？それがあれば、ほかの大学でも使いやすいようになると思う。
- ・センターでも、キャリアモデルを活用したプログラム、ロールモデルカフェ（現：メンターカフェ、社会人向け）を実施している。ちょっと先を行く先輩の話聞き、近くにいる人と感想をシェアしたりするプログラムを実施している。参加者も満足度高いが、登壇者も満足度高い。自分のキャリアを俯瞰的にみられる、モチベーションが向上するなど登壇者にも良い効果もあるため、できるだけ多くの人に登壇の機会があるとよいと考える。
- ・「ライフプランニング講座 A」について：
オンラインでの合同講座であるが、他大学共同がとてもよい。グループセッションで「自分が話せた」成功体験が重要である。本人の満足度も上がる。
- ・「キャリアデザイン入門 B」について：
理論的にこのようなことを学ぶ機会は非常に少ない。高校への出張授業では、賃金格差への衝撃が大きいようだ。女性の方が理不尽な困難にぶつかりやすく、そのときにこそ「切り拓く力」が重要である。共学でのプログラムとして重要であり、男子が受けることも非常に有効ではないか。
- ・「キャリア形成の社会学」について：
「男性だが女性が働きやすい会社を選ぶ」という感想があった。このような学生が増えていくことが講座のだいご味ではないか。
- ・「ライフプランニング講座 B」について：
働き始めて数年の社会人向けにも展開できそうなプログラムである。学生時代にこの学びを得られれば、社会人になってからのつまづきを軽減できると考える。
- ・自分で調べたり、人の考えを聞いたりして、自分の考えをまとめて発表することが学生の自信につながる。オンラインでも同様にできたことは一つの成果である。オンラインだからこそ発言できる学生もいたのではと推測する。自信のない学生も、自信を持てるようになり、長期的な視点で自主的に自分の人生を選択できると思う。
- ・男女共同参画センターの存在を学生たちに伝えていただきたい。

◆実行委員会委員より：

- ・大槻委員より：

加藤先生のシートを返却する等、手間をかけて丁寧な教育を見習う必要がある。キャリアモデルの年齢をあげていくのは、重要な視点である。意識の初期化については、学生本人まかせになっていた。プログラムの連続性・連携にお

いて、それに対策する仕組みが今後必要である。

谷口様からの、キャリア教育とジェンダー教育は切り離すことができないという指摘は重要である。プログラム全体の構成が、部分的な学習でも効果があるように設定されている、開かれた講座のよさがある、という指摘はありがたい。男子学生からの感想は興味深く、働きやすい企業を増やすように私たちが社会を変えていく必要がある。

・新井委員より：

プログラム効果の可視化については以下のように考えている。

「人生を切り拓く効果」を養う体系的なプログラムとして、

初級 キャリアデザイン入門 B

初級から中級 ライフプランニング講座 A・B

中級から上級 その他講義（分析、考察等より高度な内容）

→学習者本人がビビッドに学習効果を実感できるような仕組みが弱かったかもしれない。

対面であれば、毎回の授業で、振り返りシートを印刷し配布する仕組みをとっていたが、書いたものを忘れてしまう学生が多かった。Google フォームであれば、手元に回答が残るので、可視化することができたが、講座を受けて「自分が変化する」という点のフィードバック、また「時間が経つと元に戻ってしまう」部分に関する手当は薄かったかもしれない。

・福井委員より：

大東文化大学は、男子の比率が高い大学であり、男子の意識変容・行動変容を意識したプログラム開発を行っている。ワークライフバランスの単元に入る際に、全く知識のない状態の学生に、10年後の生活を描く未来日記を書いてもらおうと、性的役割分業意識が色濃く出た内容になる。その後、授業で労働者を取り巻く社会的な状況や女性の就業の実態、ワークライフバランス等の情報提供を行なっている。しかし、知識を得たからといって、必ずしも永続的な意識変容・行動変容に結びつかないことから、より生活に密着し、個々の思いに着目した事例を授業では取り上げている。例えば、30代から40代の女性（専業主婦子供あり、パートタイム勤務子供あり、フルタイム子供なし、独身）に対して教員がインタビューを実施し、その内容を紹介している。インタビューでは、生活のなかでの行動や、夫婦間の関係性、思いが明示されているため、男女を問わず、性役割分業意識を持つ学生にはインパクトを残すようである。感想には、「女性だから、男性だから」という行動規範や意識では、乗り越えられない現実を垣間見た、といった感想がみられた。こうした内容を踏まえ、授業の後半で、再度ライフプランをまとめると、「女性が働きやすい職場を選びたい」といった感想が見られるようになり、多くの学生に意識の変化が見られた。

・矢口委員より：

卒業生のお話を聞くと、理不尽な壁にぶつかっているOGがいる。そのようなOGに何かしてあげたい。そこを頑らしないと大学としての存在が成立しないのではないかと思います。卒業生が阻害されたり、搾取されている現状を考えたい。

(3) まとめ

- ・本事業では、4つの授業、2つの課外講座を実施し、それらの学びから、学生が「人生を切り拓く力」をはぐくむことを目的に実施した。事後アンケートや振り返りをみると、学生たちは、講義、キャリアモデルの話（動画視聴含む）、文献購読や事例分析、学生同士や卒業生との話あいなどを通じて、多くのことを学んでいた。就職活動のノウハウではなく、どう生きていくのか、どんな価値を大切に生きていくのか、自分が行きたい方向にどうやって自分をもっていくことができるのか、について多くを考える機会になったといえよう。
- ・今年度は、コロナ禍の影響により、実施予定の授業・課外講座をすべてオンラインで実施した。授業は、授業の特徴にあわせて、同時配信、オンデマンド、両方の組み合わせで実施、課外講座は、オンラインの同時配信で実施した。対面で実施できないことは残念ではあったが、オンラインで実施するよさも発見することができた。特に空間・地理的な制約がなくなったことで、「キャリアプランニング講座 A」は聖心女子大学、静岡大学、早稲田大学の学生・卒業生を一同に集めて講座を実施することができた。「キャリアプランニング講座 B」の静岡大学での実施では、浜松キャンパス、静岡キャンパス両方から同じように参加があった。同時配信型オンラインでの講座の実施は、対面よりディスカッションが難しい、ファシリテーターの役割の重要性が増すなど、課題もあるが、オンラインの良さをいかして実施することができた。

プログラム全体として、対面からオンラインでの実施にはなったが、当初の目的を遂行することはできたと考える。

- ・本プログラムでは、当初、女子大学の女子学生向けのプログラム、共学大学の男女の学生向けのプログラムを開発しようと考えていたが、検証の結果、女子大学の女子学生むけに開発されたプログラムでも、共学の男女の学生が十分学ぶことのできる内容であること、共学の男女の学生むけのプログラム開発の必要はないことがわかった。これは、男女の学生のジェンダー差がすくないという要因はあるが、男子学生にとっても、ジェンダーの視点から社会構造を知ることの重要性があるからといえよう。
- ・成果物として、当初予定としては、教材としては、各種ワークシート、事前事後アンケートひな形の作成を考えていたが、コロナ禍において、キャリアモデルの動画等を加えて作成した。最終的には、キャリアモデルの動画9本、ディスカッション・まとめ動画3本、4ステップでキャリアを考える動画4本、を作成した。キャリアモデルの動画は、「キャリアデザイン入門 B」の聖心女子大学、大東文化大学、早稲田大学の、「職業社会学1」の聖心女子大学、千葉商科大学の授業で使用した。学生からの多くを学んだとの声が多く、外部評価委員からの評価も高かった。これらの動画は、セキュリティ上、申込制とするが、無償で希望者に提供する予定である。また、開発したプログラム案や多数の各種ワークシート、事前事後アンケート等は聖心女子大学のHPより無償でダウンロードが可能にする予定である。本事業で作成したキャリアモデルの動画、プログラム案、多数のワークシート、事後事前アンケート等は、キャリア教育の教材として、キャリア教育に大きく貢献するものになると考える。
- ・今後の課題としては、外部評価委員からの指摘もあったが、特に、キャリア教育とジェンダー教育の連携（共学校における男子大学生へのジェンダー教育も含む）、授業と授業の連携、授業と講座の連携の整備、強化をあげることができる。授業科目だけでなく、課外の講座も含めたカリキュラムマップの作成、整備を行う必要があるといえよう。

Ⅲ. 事業を普及するための方策（具体的に）

- ・NVECと日本女性学習財団のサイトに聖心文科事業HPのリンクをはる。
- ・聖心女子大学グローバル共生研究所のサイトに聖心文科事業HPのリンクをはる。
- ・日本女性学習財団で「人生を切り拓くライフプランニング教育」講座の開催を検討する。
- ・聖心女子大学内の課外プログラムの中に、本事業の成果をいれこんで実施し、本事業の成果を普及させる。
- ・聖心女子大学でパネル・ディスカッションを開催し「人生を切り拓くライフプランニング教育」の成果を周知する。

Ⅳ. 来年度以降の取組について

- ・該当授業では、引き続き2020年度の成果をもとに授業を実施する。
- ・大学内の課外プログラムの中に、本事業の成果をいれこみ、実施する。

<具体的には>

- ・聖心女子大学キャリアセンターで実施する事業に本事業の成果を反映させて実施する。
- ・聖心女子大学にグローバルプラザ BE・hive という展示場所があり、テーマを決めて、展示をおこなっている。2021年5月から2年間の予定で「いま、女性はどう生きるか」というテーマで展示を行う。大抵が2021年5月から10月の展示内容を担当しているが、展示の内容に本事業の成果を盛り込む。さらに、展示をもとにした学生を対象としたワークショップを実施するが、ワークショップの内容は、本事業から得たプログラム開発の知見をもとに実施する。
- ・聖心女子大学で「人生を切り拓くライフプランニング教育」の成果をもとに、パネル・ディスカッションを開催し、学生が「人生を切り拓く力」について学ぶ機会とする。

以上